



科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (修得済内容)	履修条件 (履修科目)
英語リスニング演習 A(ベータクラス)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	音声レベルでのコミュニケーション能力、話し手と聞き手で成り立つ、そのうち、聞き手の英語リスニング力の育成をめぐる。そのためには、英語にはどのような音があるか、音と音が結びつくどのように音変化が起こるか、英語の発音リズムとはどのようなものか、イントネーションと意味の関係はどのようなものか、など、音声学の基本的な知識を身につける必要がある。基本的な英語リスニングの練習を多量に行い、音声学の基本的な知識も身につける。	1.やさしい英文を音聲で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。(リテラシー) (洞察力) 2.英語音声学の包括的な事項について、他者に十分に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.やさしい英文を音聲で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。(リテラシー) (洞察力) 2.英語音声学で扱う基本的な事項について、他者に最低限説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識)
英語リスニング演習 B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	「英語リスニング」で基本的な英語リスニング力の育成を行い、かつ、音声学の基本的な知識を身に身につけたのをあけて、「英語リスニング」より聞き取りが難しい英語が聞き取れるようになるように多段階学習。聞き取りが難しい英語とは、用いられている単語の発音と聞き取れない場合、文が長い場合、やや難解な文章を行ったりする場合、聞き取りが難しい場合、(5) 構文にさらしにくい適切な話題を見つかること、(6) 聞き取った内容と自分の思いが一致しない場合、聞き取った内容を聞き取って、話し手や聞き手の意図を推察できるように内容を整理する。	1.やや高度な英文を音聲で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。(リテラシー) (洞察力) 2.英語音声学の包括的な事項について、他者に十分に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.やや高度な英文を音聲で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。(リテラシー) (洞察力) 2.英語音声学で扱う包括的な事項について、他者に最低限説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識)
英語スピーキング演習 A(ベータクラス)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	初歩的な英語会話ができるようになることをめざす。そのためには、(1) 読みわかる単語 (受信用語彙) のみならず、自分や自由に話せる単語 (受信用語彙) を増やすこと、(2) 語と語のつながり (コネクション) の知識を心やすること、(3) 英語の基本的な文法形式を理解すること、(4) 相手の英語を正確に聞き取って内容を正しく理解すること、などの言語的能力のみならず、(5) 構文にさらしにくい適切な話題を見つかること、(6) 聞き取った内容と自分の思いが一致しない場合、聞き取った内容を聞き取って、話し手や聞き手の意図を推察できるように内容を整理する。	1.自信を持って英語で会話することができる。(リテラシー) 2.相手の英語を正しく聞き取って、その内容を正確に理解することができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.その場に応じた話題を、素早く見つけすることができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.英語で最低限の会話ができる。(リテラシー) 2.相手の英語を聞き取って、その内容を正しく理解することができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.その場に応じた話題を見つかることができる。(幅広い教養) (専門的知識)
英語スピーキング演習 B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	本科目の目的は、「英語スピーキング演習 I」のそれと同一である。「英語スピーキング演習 I」より高度な英語会話力も身につけることをめざす。	1.読みとく英語で会話することができる。(リテラシー) 2.会話の流れを断つことなく、相手の英語を正確に理解することができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.会話に必要な日常会話の知識を豊富に持つことにより、その場に応じた話題を、素早く見つけすることができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.会話の流れを断つことなく、英語で会話することができる。(リテラシー) 2.相手の英語を聞き取って、その内容を正確に理解することができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.会話に必要な日常会話の知識を豊富に持つことにより、その場に応じた話題を見つかることができる。(幅広い教養) (専門的知識)
英語ライティング演習 A(ベータクラス)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	基本的な英語を用いて、自分の言いたいことを書けるようになることをめざす。そのためには、(1) 読みわかる単語 (受信用語彙) のみならず、自分や自由に話せる単語 (受信用語彙) を増やすこと、(2) 語と語のつながり (コネクション) の知識を心やすること、(3) 英語の基本的な文法形式を理解すること、(4) 相手の英語を正確に聞き取って内容を正しく理解すること、などの言語的能力のみならず、(5) 構文にさらしにくい適切な話題を見つかること、(6) 聞き取った内容と自分の思いが一致しない場合、聞き取った内容を聞き取って、話し手や聞き手の意図を推察できるように内容を整理する。	1.自信を持って英語で文章を書くことができる。(リテラシー) 2.常に読者を意識して、読みやすい英文で文章を書くことができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.大学生としてふさわしい話題を豊富に持つことにより、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.自信を持って英語で文章を書くことができる。(リテラシー) 2.常に読者を意識して、読みやすい英文で文章を書くことができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.大学生としてふさわしい話題を豊富に持つことにより、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。(幅広い教養) (専門的知識)
英語ライティング演習 B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	本科目の目的は、「英語ライティング演習 I」のそれと同一である。「英語ライティング演習 I」より高度な英文写作力も身につけることをめざす。	1.自信を持って、世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。(リテラシー) 2.常に読者を意識して、読みやすい英文で文章を書くことができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.大学生としてふさわしい話題を豊富に持つことにより、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。(幅広い教養) (専門的知識)	1.世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。(リテラシー) 2.自分の言いたいことが読者に伝わるように意識しながら、英語で文章を書くことができる。(リテラシー) (洞察力) (分析力) 3.大学生としてふさわしい話題を豊富に持つことにより、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。(幅広い教養) (専門的知識)
フランス語会話 I	文芸学部 専門基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを体験する。「聞くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。簡単なあいさつから始まり、フランス旅行会話や日常生活などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教科書科目の「基礎フランス語 (入門)」を同時に履修することを原則とする。フランス語を専攻とする学生は教員が担当する。	1. フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる (専門的知識)。 3. 入門レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる (リテラシー)。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる (洞察力)。	1. フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を最低限、理解することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用ができる (専門的知識)。 3. 入門レベルのフランス語会話に参加することができる (リテラシー)。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる (洞察力)。
フランス語会話 II	文芸学部 専門基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを体験する。「聞くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。簡単なあいさつから始まり、フランス旅行会話や日常生活などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教科書科目の「基礎フランス語 (入門)」を履修済、あるいは同時に履修することを原則とする。フランス語を専攻とする学生は教員が担当する。	1. フランス語の入門から進んだレベルの会話で簡単な文を深く理解することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門から進んだレベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる (専門的知識)。 3. 入門から進んだレベルのフランス語会話に積極的に参加することができる (リテラシー)。 4. 入門から進んだレベルの口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる (洞察力)。	1. フランス語の入門から進んだレベルの会話で簡単な文を最低限、理解することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門から進んだレベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる (専門的知識)。 3. 入門から進んだレベルのフランス語会話に参加することができる (リテラシー)。 4. 入門から進んだレベルの口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる (洞察力)。
ギリシア語 I	文芸学部 専門基礎分野	1	2	古典ギリシア語の初歩文法を学び、古代ギリシアの歴史に魅了するための足がかりを得ることを目標とする。学部の基礎的な高1紀元前4世紀の前期古典ギリシア語で使われていた「アッヒカ方言」と呼ばれるギリシア語である。教科書に沿って法事項を順に学び、練習問題をこなしながら、その発展、精緻な文法体系を習得していく。あわせて古典ギリシア語に必要な文化的背景についても理解を深めていく。人文学の分野における学習と、人文学の今日的意義を学ぶことも行う。文法面では文字の形、読み方から始まり、格変化という現象に関わることに主眼を置くこととなる。声に出して学ぶ姿勢を身につける。	1. 学習した範囲の古典ギリシア語の初歩文法を習得し、運用できる (リテラシー) 2. 古典ギリシア語の歴史的背景に必要な文化的背景について深く理解し、説明できる (幅広い教養) 3. 古典ギリシア語が人文学分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる (専門的知識) 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる (洞察力)	1. 学習した範囲の古典ギリシア語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる (リテラシー) 2. 古典ギリシア語の歴史的背景に必要な文化的背景について基本的な事項を理解し、説明できる (幅広い教養) 3. 古典ギリシア語の文化的価値について説明できる (専門的知識) 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に思いを致すことができる (洞察力)
ギリシア語 II	文芸学部 専門基礎分野	1	2	古典ギリシア語の初歩文法を学び、古代ギリシアの歴史に魅了するための足がかりを得ることを目標とする。学部の基礎的な高1紀元前4世紀の前期古典ギリシア語で使われていた「アッヒカ方言」と呼ばれるギリシア語である。教科書に沿って法事項を順に学び、練習問題をこなしながら、その発展、精緻な文法体系を習得していく。あわせて古典ギリシア語に必要な文化的背景についても理解を深めていく。人文学の分野における学習と、人文学の今日的意義を学ぶことも行う。文法面では格変化に加えて動詞の活用についても理解を深めていく。声に出して学ぶ姿勢を実践した履修者が、この学修法を深めていくことも重要とする。	1. 古典ギリシア語の初歩文法を習得し、運用できる (リテラシー) 2. 古典ギリシア語の歴史的背景に必要な文化的背景について深く理解し、説明できる (幅広い教養) 3. 古典ギリシア語が人文学分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる (専門的知識) 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる (洞察力)	1. 古典ギリシア語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる (リテラシー) 2. 古典ギリシア語の歴史的背景に必要な文化的背景について基本的な事項を理解し、説明できる (幅広い教養) 3. 古典ギリシア語の文化的価値について説明できる (専門的知識) 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に思いを致すことができる (洞察力)
ラテン語 I	文芸学部 専門基礎分野	1	2	ラテン語の基礎文法を学び、辞書を使って簡単なテキストを読める程度のレベルに到達することを目標とする。学部の基礎的な高1紀元前5世紀の前期古典ラテン語で使われていた「アッヒカ方言」と呼ばれるラテン語である。教科書に沿って法事項を順に学び、練習問題をこなしながら、その発展、精緻な文法体系を習得していく。あわせて古典ラテン語に必要な文化的背景についても理解を深めていく。人文学の分野における学習と、人文学の今日的意義を学ぶことも行う。文法面では文字の形、読み方から始まり、格変化、動詞の活用についても理解を深めていく。声に出して学ぶ姿勢を身につける。	1. 学習した範囲のラテン語の初歩文法を習得し、運用できる (リテラシー) 2. ラテン語の歴史的背景に必要な文化的背景について深く理解し、説明できる (幅広い教養) 3. ラテン語が人文学分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる (専門的知識) 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる (洞察力)	1. 学習した範囲のラテン語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる (リテラシー) 2. ラテン語の歴史的背景に必要な文化的背景について基本的な事項を理解し、説明できる (幅広い教養) 3. ラテン語の文化的価値について説明できる (専門的知識) 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的意義に思いを致すことができる (洞察力)
ラテン語 II	文芸学部 専門基礎分野	1	2	ラテン語の基礎文法を学び、辞書を使って簡単なテキストを読める程度のレベルに到達することを目標とする。学部の基礎的な高1紀元前5世紀の前期古典ラテン語で使われていた「アッヒカ方言」と呼ばれるラテン語である。教科書に沿って法事項を順に学び、練習問題をこなしながら、その発展、精緻な文法体系を習得していく。あわせて古典ラテン語に必要な文化的背景についても理解を深めていく。人文学の分野における学習と、人文学の今日的意義を学ぶことも行う。文法面では格変化に加えて動詞の活用についても理解を深めていく。声に出して学ぶ姿勢を実践した履修者が、この学修法を深めていくことも重要とする。	1. ラテン語の初歩文法を習得し、運用できる (リテラシー) 2. ラテン語の歴史的背景に必要な文化的背景について深く理解し、説明できる (幅広い教養) 3. ラテン語が人文学分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる (専門的知識) 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる (洞察力)	1. ラテン語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる (リテラシー) 2. ラテン語の歴史的背景に必要な文化的背景について基本的な事項を理解し、説明できる (幅広い教養) 3. ラテン語の文化的価値について説明できる (専門的知識) 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的意義に思いを致すことができる (洞察力)
CG基礎実習 I	文芸学部 専門基礎分野	1	1	Adobe IllustratorおよびPhotoshopを、情報デザインとしての視覚表現に活用する目的をもって、その操作方法を学習する。色彩論を踏襲する作用に類似しながら、CGソフトによる情報デザインの方法を学び、あわせて色彩学基礎の理解をすすめる。デザインを、数値的な秩序によるコントロールする方法を学ぶ。色や形や空間の条件が知覚に与える影響、作用原理を通して理解し、造形心理学基礎の理解をすすめる。	(1) Adobe Illustrator, Photoshopの操作スキルを身に付けられるようになる (専門的知識・リテラシー) (2) ZDQC&DTPIに関する基本的な知識と技術環境を理解できるようになる (幅広い教養・専門的知識) (3) 情報デザインにおける色彩論と形態論の役割を知っている (専門的知識・洞察力) (4) ZDQC&DTPIに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について理解することができる (幅広い教養・リテラシー)	(1) Adobe Illustrator, Photoshopの基礎的な操作スキルを身に付けている (専門的知識・リテラシー) (2) ZDQC&DTPIに関する基本的な知識と技術環境を理解できるようになる (幅広い教養・専門的知識) (3) 情報デザインにおける色彩論と形態論の役割を知っている (専門的知識・洞察力) (4) ZDQC&DTPIに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について他者の技術を傳へられるようになる (幅広い教養・リテラシー)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (修得評価)	修得目標 (修得評価)
CG基礎実習Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	言葉と色のイメージのつながりや考えも配色に関わり、自身が選んだ配色(作った色)の効果を元に視覚的・感情的に、自身の色覚感覚を把握・理解し、自身の特性を活かすカラーデザインを考案する。色彩知識・色彩空間のメトリックを学び、自身の特性と照合して、色の効果感を考案する。色そのものだけでなく、形状や空間配置、時間変化などの条件による調和の色について学ぶ。さまざまな環境条件による色覚の多様性の観察を知り、ユニバーサル・デザインとしての色の役割と使い方を学ぶ。Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化(動き)の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす視覚表現を演習する。期末には授業で作成した図に解説と応用制作を加え、マルチメディア電子ブック作成にまとめる。	(1) 色の効果感に配色知識に関連性を持ち、自身の色彩感覚を活かした色彩表現ができるようになる(専門的知識) (2) ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を把握理解し、それに基づき視覚表現ができるようになる(幅広い教養・専門的知識) (3) Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化(動き)の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす視覚表現ができるようになる(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (4) 情報媒体として基本的なレイアウトデザインができるようになる(専門的知識・リテラシー)	(1) 色の効果感と配色知識の基本的な理解し、基礎的色彩感覚が深まるようになる(専門的知識) (2) ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を把握理解し、それに基づき視覚表現ができるようになる(幅広い教養・専門的知識) (3) Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化(動き)の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす視覚表現ができるようになる(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (4) 情報媒体として基本的なレイアウトデザインができるようになる(専門的知識・リテラシー)
Web基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	Webサイト構築のための基礎知識を学ぶと同時にサイトの多様性に合わせたコンテンツ編集能力を身につける。Webの仕組みやサイトの多様性を知り、「ユーザビリティ」を考慮した上で「ターゲット」「サイトのゴール」の意図に応じたインターフェイスデザインについて学び、また、マルチデバイス対応を含めた最新のWebサイトの開発の現状、それらを踏まえWebサイト設計の考え方を学ぶ。さらに、HTML5及びCSS3の基礎知識や、画像やWeb APIを利用する方法を学び、これらを用いたサイト構築の実践に取り組むことで、コンテンツ編集能力を身につける。	(1) Webサイトの仕組みやサイトの多様性を理解する(幅広い教養・専門的知識) (2) Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の意図に応じたインターフェイスデザインについて知っている(幅広い教養・専門的知識) (3) Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と選択について知っている(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (4) Webサイトの設計ができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (5) HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を使いこなせる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (6) Webサイトで画像やWeb APIを利用する技術を使いこなせる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)	(1) Webサイトの仕組みやサイトの多様性を基礎知識で理解する(幅広い教養・専門的知識) (2) Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の意図に応じたインターフェイスデザインについて基礎知識を持っている(幅広い教養・専門的知識) (3) Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と選択について基礎知識を持っている(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (4) Webサイト入門的な設計ができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (5) HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を基礎知識で使える(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (6) Webサイトで画像やWeb APIを利用する入門的技術を使いこなせる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)
DTP基礎実習Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	印刷物の企画から印刷までの全工程について必要な基礎知識を学ぶとともに、DTPの基礎的な技術を習得する。Adobe InDesignでレイアウトフォーマットの設定や文字・画像の配置や適切な調整などの基本的な技術を習得することを目標とする。編集の技術やツールに関する講義を履修し、各自が習得課題に取り組む。また、課題に関するプレゼンテーションや相互レビューを行う。	(1)印刷物の企画から印刷までの全工程について必要な基礎知識がある(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)DTPで使われるデザインを行うためのルールを理解し、Adobe InDesignを使ってビジュアル的なページレイアウトを作成することができる(専門的知識・リテラシー) (3)Adobe IllustratorやPhotoshopの特性やDTPにおける役割を理解している(専門的知識) (4)多岐多岐の収集や研究、課題の検討、印刷準備作成などの立派な作業に取り組み(幅広い教養・洞察力・リテラシー) (5)成果として卓越したプレゼンテーションができる(リテラシー) (6)他者の発表を分析することができる(洞察力)	(1)印刷物の企画から印刷までの全工程について基礎知識の基礎知識がある(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)DTPの基礎的なルールや技術がある程度習得し、Adobe InDesignを使って多岐多岐のページレイアウトを作成することができる(専門的知識・リテラシー) (3)Adobe IllustratorやPhotoshopの特性やDTPにおける役割を理解している(専門的知識) (4)多岐多岐の収集や研究、課題の検討、印刷準備作成などの立派な作業に取り組み(幅広い教養・洞察力・リテラシー) (5)成果のプレゼンテーションが基礎知識でできる(リテラシー) (6)他者の発表を分析することができる(洞察力)
DTP基礎実習Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	DTP基礎実習Ⅰで習得した知識を生かし、テーマに関するリサーチや企画書やラフコンテの制作、原稿執筆、校正などの編集業務の全工程を、より実践的に学ぶ。Adobeソフトを活用し、画像の編集やページデザインなども体験しながら、プロフェッショナルな編集・発行のスキルを身につける。	(1)DTPの基礎的な理解にもとづき、Adobeソフト(InDesign/Illustrator/Photoshop)を活用し、オリジナルのイメージのあるページレイアウトを作成することができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)テーマに関するリサーチや取材や適切な方法を行い、制作物に反映することができる(幅広い教養・洞察力) (3)企画書執筆、ページレイアウト制作、原稿執筆、印刷の調整、文字・色校正などのプロセスに能動的に取り組み、高いレベルで実践することができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (4)著作権や肖像権を理解し、制作物について適切な取扱いを行うことができる(リテラシー・専門的知識)	(1)DTPの基礎を理解し、Adobe InDesignを用いたページレイアウト制作ができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)テーマに関するリサーチを行い、制作物に反映することができる程度である(幅広い教養・洞察力) (3)企画書執筆、ページレイアウト制作、原稿執筆、印刷の調整、文字・色校正などのプロセスに能動的に取り組むことができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (4)著作権や肖像権に関する知識を理解し制作物において適切な取扱いを行うことができる(リテラシー・専門的知識)
DTM・オーディオ基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	現在、ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきている。MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、これらの音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となっている。本実習では、実際の制作過程を通して、コンピュータを用いた音楽制作の基本的なスキルや方法を学ぶ。同時に、オリジナルサウンドトラック制作に必要な技術や手順を通して、音楽に関する理解を深め、自己表現の可能性を探求することを目標とする。	(1)ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する(幅広い教養・リテラシー) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となっていることを理解する(幅広い教養・専門的知識) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの基礎を理解し、アレンジの方法を身に着ける(専門的知識) (4)オリジナルサウンドトラック制作に必要な技術や手順を通して、音楽に関する理解を深め、自己表現の可能性を探求することができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力)	(1)ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する(幅広い教養・リテラシー) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、音楽制作過程のほとんどを実習することが可能となっていることを理解する(幅広い教養・専門的知識) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの基礎的な技術を理解し、与えられた楽曲のDTMによる演奏ができる(専門的知識) (4)オリジナルサウンドトラックの制作ができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力)
デジタルビデオ基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	動きと時間軸の伴った映像的な伝達メディアとしてのデジタルビデオの可能性を模索する。技術を知ることのみならず、写真や映像では伝達できない動きによる面白さや、映像制作の醍醐味を知ること目標とする。そのために、デジタルビデオ機器の使用法と実写映像の編集技法、アニメーションの制作、さらにインターネットやDVD/CD配布する際のそれぞれに適した扱い方を実践的に学ぶ。また、アニメーションとビデオを融合させる制作方法を習得する。	(1) デジタルビデオ編集の基礎的な知識と技術を習得している(幅広い教養・専門的知識) (2) 他のメディア、例えば写真や映像との相違を知識として理解している(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3) デジタルビデオ機器の使用法の基礎知識に基づき、実写映像、アニメーション、さらにSNS上の映像作品を制作することができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (4) アニメーションとビデオを融合させる制作方法を身につけている(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)	(1) デジタルビデオ編集の基礎的な知識と技術を習得している(幅広い教養・専門的知識) (2) 他のメディア、例えば写真や映像との相違を知識として理解している(幅広い教養・専門的知識) (3) デジタルビデオ機器の使用法の基礎知識に基づき、実写映像やアニメーション作品を制作することができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (4) アニメーションとビデオを融合させる基礎的な方法を習得しており、適用できる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)
プログラミング基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	プログラミング未経験者のための入門クラスである。初心者でも扱いやすいGUI(グラフィカルユーザーインターフェイス)環境のもとでプログラミングを通じて、プログラムはどのように動作するのかという基本的な仕組みについて学び、プログラミングの基礎的なメカニズムや方法を学ぶ。プログラムの準備から実際の開発作業を身につけて体験することで、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、コンピュータによる問題解決法、情報技術についての理解をすすめるようものである。	(1)コンピュータプログラムの概念を理解し、それを他者に説明できる(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (2)変数、命令、繰り返し、条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し、それを用いて応用的なプログラミングができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3)与えられた問題を解決するためのプログラミングを自分の力で行うことができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)	(1)コンピュータプログラムとプログラミングの概念を基礎理解している(幅広い教養・専門的知識・洞察力) (2)変数、命令、繰り返し、条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し、それを用いて基本的なプログラミングができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3)与えられた問題を解決するためのプログラミングを、他者の助けを得ながら行うことができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)
中文入門A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、中文学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を明示することで、2年次における基礎知識の獲得を行う。具体的には、言語・文化について学ぶための必要な基礎知識と、言語・文化を分析する観点・方向に関する基礎的な技術を習得する。	1. 言語・文化について学ぶために必要な基礎知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2. 言語・文化を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(洞察力) 3. 言語・文化への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。(専門的知識)	1. 言語・文化について学ぶために基礎知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2. 言語・文化を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(洞察力) 3. 言語・文化への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が身に付いている。(専門的知識)
中文入門B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、中文学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を明示することで、2年次における基礎知識の獲得を行う。具体的には、言語について学ぶために必要な基礎知識と、言語を分析する観点・方向に関する基礎的な技術を習得する。	1. 言語について学ぶために必要な基礎知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 言語を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(洞察力) 3. 言語への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。(論理的思考力、リテラシー)	1. 言語について学ぶために基礎知識を修得し、その特色が理解できる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 言語を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(洞察力) 3. 言語への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が身に付いている。(論理的思考力、リテラシー)
中文入門C	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、中文学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を明示することで、2年次における基礎知識の獲得を行う。具体的には、文化について学ぶために必要な基礎知識と、文化を分析する観点・方向に関する基礎的な技術を習得する。世界各所で育まれてきた豊かな文化を複合的に理解する観点から学ぶ。	1.文化について学ぶために必要な基礎知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2.文化を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(リテラシー) 3.文化への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。(洞察力) 4.少くとも一つの文化事象について説明することができる。(専門的知識) 5.広い視野で「文化」を捉えることができる。(幅広い教養)	1.文化について学ぶために基礎知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2.文化を分析する観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(リテラシー) 3.文化への関心や、それについて説明しようとする意欲・態度が身に付いている。(洞察力) 4.少くとも一つの文化事象について説明することができる。(専門的知識) 5.広い視野で「文化」を捉えることができる。(幅広い教養)
中文入門D	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、中文学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を明示することで、2年次における基礎知識の獲得を行う。本講義においては、メディアに関する基礎知識の習得をめざす。「メディア」という言葉は、報道・出版・マスメディアの概念を指していることが多いが、本来の意味では「何かを何かの媒体(ことであり、具体的には、声、文字、本、雑誌、新聞などの印刷出版物、図書、音楽、美術、映画、放送(テレビ、ラジオ)、電話、ファクス、ケータイ、コンピュータネットワーク等々のことである。さらには郵便物といった原理、そこに依存する人間の身体や物も「メディア」であることも理解する。次に「見る」として「マスメディア」を指すのと同じく、メディアの発展の歴史を踏まえながら、狭くは文化の歴史にまで追いついた視点から、歴史的には、本来の意味での「メディア」の観点から、メディアが文化・芸術の「本質」形成にどうとど、どのような「形式」であったかを思考できる基礎知識を養成する。	(1)「メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (2)「マスメディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)「ソーシャル・メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (4)「見る」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(幅広い教養・専門的知識) (5)「テレビ」の発展の歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (6)「テレビ」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (7)「ラジオ」の技術と歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (8)「ラジオ」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (9)「出版物」の技術と歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (10)「出版物」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (11)「映画」の発展の歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (12)「映画」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力)	(1)「メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (2)「マスメディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)「ソーシャル・メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (4)「見る」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(幅広い教養・専門的知識) (5)「テレビ」の発展の歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (6)「テレビ」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (7)「ラジオ」の技術と歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (8)「ラジオ」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (9)「出版物」の技術と歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (10)「出版物」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (11)「映画」の発展の歴史をメディア論的に理解できる。(専門的知識・洞察力) (12)「映画」のメディア論的側面を把握し、考察することができる。(専門的知識・洞察力)
日本語学論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本語の構造上の特徴について、現代に視座を対照として、音韻・文法・語彙・語法・語義・語用、文章、語彙、ことばの歴史などから理解する。日本語の構造上の基礎的な知識や音韻の技術を使いこなせる観点・方向に関する基礎的な技術を学ぶ。	1. 日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養・専門的知識) 2. 音韻の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技術が身に付いている。(洞察力) 3. 日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切に行えるようになる。(分析力・論理的思考力)	1. 日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が一連理解できる。(幅広い教養・専門的知識) 2. 音韻の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技術がある程度身に付いている。(洞察力) 3. 日本語に対する思考・判断、日本語による表現が部分的にはできるようになる。(分析力・論理的思考力)
日本文学概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本文学における文学史上重要な位置を占める作品を、上中古文から近世文学まで、およびその代表ジャンル(2) (源・歌・文)に分類することで、それぞれの時代の作品の特色がどのように展開するか、どのような人によって書かれたか、どのような文脈で書かれたかを理解する。その文脈や作品の特色(「新しさ」や、読者層、時代ごとの出版メディアの進化なども深く関わっており、それが作品に与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学ぶ。基礎知識を身につけるだけでなく、日本文学の特質を感じながら味わい、今後専門的に学ぶ中で深く探究を促す。	1.日本文学の歴史、地理的な展開、変遷について、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.日本文学作品の題材、作家、読者とその意識的関わりについて、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.日本文学作品の性質を、経済や歴史・文化、メディアの発展などに関連付けながら、総合的に説明することができる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)	1.日本文学の歴史、地理的な展開、変遷についての基本的な事項を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.日本文学作品の題材、作家、読者とその意識的関わりについて、基本的な事項を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.日本文学作品と、経済や歴史・文化、メディアの発展などに関わりについて、基本的な事項を説明できる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目目標	到達目標(到達目標)	到達目標(到達目標)
日本文学概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本文学における文学上重要な位置を占める作品を、近世から近代文学まで、およびその時代背景やジャンルと(戯文・戯文など)に文学的表現の集合がどのような特徴を持ち、どのような人によってつづられ、どのように読まれたかを理解する。その文学作品の読まれ方(読者層)、訳書は、時代ごとの出版メディアの変化とも深く関わっており、それが作品に与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学ぶ。基礎知識を身につけるだけでなく、日本文学の特徴を感じながら味わい、今後専門的に学ぶ中で深く基礎を培う。	1.近代日本文学の歴史、地理的な背景、変遷について、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形態への関わりを、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.近代日本文学作品の性質を、経緯や歴史、メディアの発展などに関連付けながら、総合的に説明することができる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)	1.近代日本文学の歴史、地理的な背景、変遷について基本的な事項を説明できる。(幅広い教養・専門的知識) 2.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形態への関わりについて、基本的な事項を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.近代日本文学作品と、経緯や歴史、メディアの発展などの関わりについて、基本的な事項を説明できる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)
英語学概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本では「英語学」という明確な領域はLinguistics(言語学)の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく分けて、(1)英語とどのような言語であるのかという点を巨視的な観点から眺めること。(2)人間の言語とはどのような特徴を持つのかということも巨視的な観点から眺めること。英語とはどのような言語にどのような特徴もあれば、英語に限らず人間の言語に普遍的に見られる特徴もある。その両者を観察することになる。習得は至寛のような存在である「言語」というものについて、落ち着いて考える機会を持つこととすまわ重要なことである。	英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	英語学・言語学の基本的な事項について、他者に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
イギリス文学文化概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	イギリス文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って概観しつつ、イギリス文学と文化の特徴を理解するための門的文学作品を紹介する。知識集り多量ですべてを専門的知識として習得し、作品の現代性を自ら批判的に考察する。	1.イギリス文学の流れ、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2.各時代を代表する文学作品の特徴を正しく理解し、自分の言葉で賞讃できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1.イギリス文学の流れ、歴史的・文化的背景の中で中およびよく理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2.各時代を代表する文学作品の特徴をおおそく理解し、自分の言葉で賞讃できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
アメリカ文学文化概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	どのような観点から文学作品にアプローチすれば、アメリカ文学の特徴を把握できるのか一般的な視点を示し、それぞれの特徴が生まれてきた文化的背景を学ぶ。個別の文学作品にできるかぎり多く触れ、様々なメディア(映画・絵画・音楽など)を参照しながら、文化的な特徴を把握するための入門的役割を持つ科目である。	1.アメリカ文学・文化の特質について深く理解できる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえようとして、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表明できる。(専門的知識) (洞察力) (論理的思考力)	1.アメリカ文学・文化に関する一般的な事項を理解できる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえようとして、自分の問題意識を持つことができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
フランス語学概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	フランス語学習の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語が読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、習得を、音を採る。アルファベットで読める点(英語とは同じだが、英語との相違点もある)を、特につづり字と発音について、整理をする。まずフランス語の基本的な構文を知り、読めるようになる。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを把握する。ヨーロッパの地理としてフランス語の圏を踏まえ、フランス語の重要性、国際化語として英語とともに使用されている現状も把握する。	1. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の語彙の発音・表記・意味をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) 2. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の発音とつづり字の関係を理解し、日本語でわかりやすく説明できる。(洞察力、分析力) 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる。(専門的知識) 4. フランス語圏の学修を通して、言葉の本質について考察を視覚的に述べることができる。(論理的思考力)	1. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の語彙の発音・表記・意味を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) 2. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の発音とつづり字の関係を理解し、日本語で説明できる。(洞察力、分析力) 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正しく説明することができる。(専門的知識) 4. フランス語圏の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる。(論理的思考力)
フランス語学概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	フランス語学習の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語が読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問いを立て、習得を、音を採る。アルファベットで読める点(英語とは同じだが、英語との相違点もある)を、特につづり字と発音について、整理をする。まずフランス語の基本的な構文を知り、読めるようになる。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを把握する。ヨーロッパの地理としてフランス語の圏を踏まえ、フランス語の重要性、国際化語として英語とともに使用されている現状も把握する。	1. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の単語から文まで正しく発音できる(幅広い教養) 2. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の基本文型と構文を深く理解し、日本語で正確に説明できる(専門的知識) 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる(洞察力、分析力) 4. フランス語圏とはどのような学問的領域なのかという問いについて適切な回答をすることができる(専門的知識) 5. フランス語圏の学修を通して、言葉の本質について考察を視覚的に述べることができる(論理的思考力)	1. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の単語から文まで発音できる(幅広い教養) 2. フランス語の入門レベル(CEFR A1.1)の基本文型と構文を深く理解し、日本語で説明できる(専門的知識) 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正しく説明することができる(洞察力、分析力) 4. フランス語圏とはどのような学問的領域なのかという問いについて適切な回答を述べることができる(専門的知識) 5. フランス語圏の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる(論理的思考力)
フランス文学概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	フランス文学と、その背景のフランス文化を知る。フランス語で書かれた文学作品と人物の紹介によって概観する。なじみのあるテーマからフランス文化入門。作品に触れるきっかけとして、翻訳・戯作(アダプテーション)は切っても切れない関係にある。本科目では、戯作、演劇、パフォーマンス・アート、音楽(ミュージカル、オペラ)などの具体例を通して、芸術の関わり合いの文化を考察する。	1. フランス語で書かれたフランス文学の基礎知識を持ち、くまなく観察することができる(幅広い教養) 2. フランス・フランス語圏文学史の重要な作家の名前を復習し、その特徴を列挙することができる(専門的知識) 3. 課題になったすべてのフランス文学作品を翻訳で読んでみる(専門的知識) 4. 芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴をよく説明することができる(洞察力、分析力) 5. フランス文学の学修を通して、言葉の本質について考察を視覚的に述べることができる(論理的思考力)	1. フランス語で書かれたフランス文学の基礎知識を持ち、観察することができる(幅広い教養) 2. フランス・フランス語圏文学史上の重要な作家の名前を一つ以上挙げることができる(専門的知識) 3. 課題になったフランス文学作品を一つ以上、翻訳で読んでみる(専門的知識) 4. 芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴を説明することができる(洞察力、分析力) 5. フランス文学の学修を通して、文学の意義を述べることができる(論理的思考力)
フランス文化概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	多彩で、洗練されたフランス文化を知る。フランスの文化遺産、観光資源、景観、芸術文化(彫刻・絵画・建築など)、特産品(食料品・酒類・香水・ファッション)、「グランド・ホテル」や「ザ・グランド・ホテル」など、宗教文化(カソリック・プロテスタント)や「フランスの文化遺産」を、フランス特有の文化を概観する。「文化」とは、一般的に「ある社会集団に固有の物質的・精神的なものを指すが、一口に文化といっても、伝統的な数々の構成要素を有する社会的な「文化」(文明)から、ポップアートやポップミュージックのようなポップカルチャーまで、さまざまな種類のものが、さまざまなレベルのフランス文化をその広がりの中で支えている。地理や歴史の基本的な事項を学び、比較的深いフランスのイメージを読み解くことで、現代フランス文化の背景を理解する。そこから独自の視点を身に付ける。	1. フランス語圏の文化(文学・芸術・社会・歴史)の基礎知識を持ち、個々の事項を的確に捉えて、観察することができる(幅広い教養) 2. フランスの文化(文学・芸術・社会・歴史)に寄与した人物の名前を復習し、文脈の上で位置づけ、その特徴を列挙することができる(専門的知識) 3. 課題になったフランス文化(文学・芸術・社会・歴史)に関する文章をまんべんなく読んでみる(専門的知識) 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化(文学・芸術・社会・歴史)の特徴をわかりやすく説明することができる(洞察力、分析力) 5. フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、客観的に論述することができる(論理的思考力)	1. フランス語圏の文化(文学・芸術・社会・歴史)の基礎知識を持ち、個々の事項を観察することができる(幅広い教養) 2. フランスの文化(文学・芸術・社会・歴史)に寄与した人物の名前を一つ以上挙げ、その特徴を列挙することができる(専門的知識) 3. 課題になったフランス文化(文学・芸術・社会・歴史)に関する文章を部分的に読んでみる(専門的知識) 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化(文学・芸術・社会・歴史)の特徴を説明することができる(洞察力、分析力) 5. フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、述べることができる(論理的思考力)
児童文学概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	歴史上、「子ども」がどのように位置づけられてきたかを踏まえ、「フェアリーテール」と呼ばれるものも含め、広く知られている作品を、児童文学と見なす。とどのようなものか、どのように変化してきたかを考察する。「児童文学」というような形で生まれ、現代社会の中でどのような意義を持つのかを考察するための入門的講義である。	1.児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、子ども向けの本と歴史を踏まえ、理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2.講義で取り上げた作品について、児童文学の歴史と変遷を踏まえ考察し、それを論理的に表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1.児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、ある程度、理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2.講義で取り上げた作品について考察し、その表現と歴史とを表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
翻訳概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	「文学作品の翻訳」領域を脱して、もっと広い意味で「翻訳とは何か」という問題を様々な角度から探る。創訳法として作り、現在の日本の大部分を占める翻訳から出発して、文学部で学ぶ文学・芸術の国際間におけるそれと関わりのある多岐にわたる材料を取り上げる。講義科目ではあるが、学生がそれぞれ自分のまわりにある「翻訳」を見つめて、考察できるようにする。さらに言語の背景に存在する社会や文化の差による価値観の違いも考察する。異なる価値観を一方的に強加したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる様々な問題を理解することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.文化(文学)が翻訳される時に何が残り何が失われるのかを考察した上で、異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。(論理的思考力) 3.文化の背景に関する翻訳の事例を複数挙げて説明することができる。(洞察力、分析力)	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる問題を理解することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。(論理的思考力) 3.文化の背景に関する翻訳の事例を複数一例、説明することができる。(洞察力、分析力)
異文化間コミュニケーション概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	人間は「言語」文化を超えて普遍的な人間性がある一方で、言語・文化によって世界観・価値観が大きく異なる側面もある。後者の側面、異なる言語・文化を背景に持つ人間どうしコミュニケーションを行う場合は、摩擦や齟齬が生じる可能性がある。そのような異文化間コミュニケーションを身につけて、異文化間コミュニケーションとは何なのかという問いを考察する。さらに言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に強加したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1.異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、他者に正確に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.本科目で学修することを基礎として、適切な異文化間コミュニケーションをすることができる。(論理的思考力) 3.自ら実践するコミュニケーションをまわって客観的に説明することができる。(洞察力、分析力)	1.異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.本科目で学修することを基礎として、適切な異文化間コミュニケーションをすることができる。(論理的思考力) 3.自ら実践するコミュニケーションをまわって客観的に説明することができる。(洞察力、分析力)
新芸術概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	代表的な芸術形態として、舞臺、能楽(能・狂言)、歌謡、人形浄瑠璃を中心に扱う。授業内容は、これら三種類の芸術に共通する(あるいは類似した)トピックを扱う一方で、舞台美術を交えながら、それぞれの特徴を捉えていることとをまとめる。その他、それぞれの代表的な作品をとりこみ鑑賞する機会も数回にわたって設ける。	1.舞臺、能楽、歌謡、人形浄瑠璃に関する基礎的な知識を身につけることができる。(専門的知識・幅広い教養) 2.舞臺能楽に強い関心をもって、深い理解をもって理解することができる。(論理的思考力、リテラシー、洞察力、分析力)	1.舞臺、能楽、歌謡、人形浄瑠璃、それぞれの芸術がどのようなものか理解できる。(専門的知識・幅広い教養) 2.舞臺能楽の関心を持って、自ら関心深い点と関わりをわけることができる。(論理的思考力、リテラシー、洞察力、分析力)
新芸術概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この授業では、演劇が社会において果たす役割を様々な角度から理解する。単に観察として楽しむだけでなく、演劇と社会の関係性の歴史を踏まえた上で、劇場の役割、公共劇場のミッション、演劇が教育・公共性にも果たした機能とその課題などを整理「グロ」の語を交えて理解する。	1.社会における演劇の役割についての十分な知識が身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 2.個々の劇場の社会的機能十分に説明できるようにする。(洞察力、分析力、論理的思考力)	1.社会における演劇の役割についての知識が一掃されている。(専門的知識・幅広い教養) 2.個々の劇場の社会的機能が自分なりに説明できるようにする。(洞察力、分析力、論理的思考力)
新芸術概論C	文芸学部 専門基礎分野	1	2	映画、テレビドラマをはじめとする映像表現の特性を学び、それらの作品の観賞を通してドラマに目を向けようとする。	1.映画・テレビドラマなど映像表現の表現と特性について、考え方を知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その表現とドラマに目を向けようとして分析・説明することができる。(洞察力、分析力) 3.自身と映像表現の関係について、歴史や表現としてさまざまな角度から考えることができる。(論理的思考力、リテラシー)	1.映画・テレビドラマなど映像表現の表現と特性について基本的な考え方を知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その面白さがどこにあるのかを説明することができる。(洞察力、分析力、論理的思考力)
日本・東洋美術史概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に理解する。その間、日本列島とアジア諸地域の文化交流という観点から十分理解している。(幅広い教養・専門的知識)	1.古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に十分理解している。(幅広い教養・専門的知識) 2.日本列島とアジア諸地域の文化交流という観点から十分理解している。(幅広い教養・専門的知識) 3.日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通して分析・説明している。(専門的知識・洞察力・分析力) 4.美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人の生活がどのように表現しうしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を持つことができる。(分析力・論理的思考力)	1.古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、通史的に一通り理解している。(幅広い教養・専門的知識) 2.日本列島とアジア諸地域の文化交流という観点から一通り理解している。(幅広い教養・専門的知識) 3.日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通して分析・説明している。(専門的知識・洞察力・分析力) 4.美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人の生活がどのように表現しうしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を一通り理解している。(分析力・論理的思考力)







科目名称	科目区分	担当年次	単位数	到達目標	到達目標 (評価項目)	到達目標 (評価項目)
日本文学Ⅰ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	日本文学(中近世文学)を説明するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品それぞれのテキストが内包する問題を自らが発見し、論証する方法を学ぶ。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につける。	1. 日本文学(中近世文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場において的確なやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(中近世文学)について他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学(中近世文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を一通り実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を一通り作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場において一通りやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(中近世文学)について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学Ⅱ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	日本文学(中近世文学)を説明するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品それぞれのテキストが内包する問題を自らが発見し、論証する方法を学ぶ。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につける。	1. 日本文学(中近世文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を十分に実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場において的確なやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(中近世文学)について他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学(中近世文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか一通り理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を一通り実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を用いた上で作品を読解し、ある程度発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場においてやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(中近世文学)について、一通り他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学Ⅲ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	日本文学(近現代文学)を説明するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品それぞれのテキストが内包する問題を自らが発見し、論証する方法を学ぶ。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につける。	1. 日本文学(近現代文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場において的確なやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(近現代文学)について他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学(近現代文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか一通り理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を一通り実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を用いた上で作品を読解し、ある程度発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場においてある程度やりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(近現代文学)について他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学Ⅳ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	日本文学(近現代文学)を説明するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品それぞれのテキストが内包する問題を自らが発見し、論証する方法を学ぶ。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につける。	1. 日本文学(近現代文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるかより深く理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を十分に実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場において的確なやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(近現代文学)について他者と協力しながら、さらに主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学(近現代文学)の読解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか一通り理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品読解のための調査、分析を一通り実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を用いた上で作品を読解し、ある程度発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言し、質疑応答の場においてやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力) 7. 日本文学(近現代文学)について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
英語学Ⅰ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	入門期にある学生を対象とするので、英語学・言語学という上位の研究領域に含まれるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文脈、主に基礎論や語用論などの領域に関連する文脈を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学Ⅰとは異なる分野の比較的文脈的な文章を読んで、書き手の言いたいことを思いよすま正しく理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学Ⅰとは異なる分野の比較的文脈的な文章を読んで、書き手の言いたいことをある程度読み取ることができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者にある程度説明することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
英語学Ⅱ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	入門期にある学生を対象とするので、英語学・言語学という上位の研究領域に含まれるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文脈、主に基礎論や語用論などの領域に関連する文脈を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学Ⅱとは異なる分野の比較的文脈的な文章を読んで、書き手の言いたいことを思いよすま正しく理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学Ⅱとは異なる分野の比較的文脈的な文章を読んで、書き手の言いたいことをある程度読み取ることができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者にある程度説明することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
イギリス文学文化Ⅰ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	イギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた20世紀以前の作品を取り上げ、翻訳の難しさを乗り越えながら読むことで、文学作品を説明するための英読解力と自己の英読解力とを身につける。作品が書かれた時代の文化的背景について理解を深め、作品を多様な角度から分析する。これらの過程を経て、作品に対して自発的な関心や疑問を抱き、考察できるようにする。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた文章を正確に読みこなすことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解し、それを踏まえた上で作品を分析することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う作品に対して自発的な関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 4. 本科目におけるグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた文章をある程度読むことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を理解し、それを踏まえた上で作品をある程度分析することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う作品に対して関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる(主体的関与) 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
イギリス文学文化Ⅱ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	イギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた20世紀以後の作品を取り上げ、翻訳の難しさを乗り越えながら読むことで、文学作品を説明するための英読解力と自己の英読解力とを身につける。作品が書かれた時代の文化的背景について理解を深め、作品を多様な角度から分析する。これらの過程を経て、作品に対して自発的な関心や疑問を抱き、考察できるようにする。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた文章を正確に読みこなすことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解し、それを踏まえた上で作品を分析することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う作品に対して自発的な関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 4. 本科目におけるグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的新しい英語で書かれた文章をある程度読むことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を理解し、それを踏まえた上で作品をある程度分析することができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う作品に対して関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる(主体的関与) 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
アメリカ文学文化Ⅰ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	アメリカ文学を書籍で読み、作品の理解を通して、英文の正確な読解力と自己の英文読解力とを身につける。作品の理解を通して多様なアメリカ文化の理解を促す演習である。この演習では、比較的読者の対象年齢が若いヤング・アダルトの名作を扱い、作品に登場している議題を発見し、解釈し考察するための自分の視点を持つようにする。主体に発見した問題を発表・共有し、他者と対話を発展させる。	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の理解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識を深く理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力) 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の理解を通して、自分自身の問題意識について深く考察し、意見を言うことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の理解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識をある程度理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力) 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の理解を通して、自分自身の問題意識について考察し、ある程度意見を言うことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら調べ、発表し、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
アメリカ文学文化Ⅱ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	アメリカ文学を書籍で読み、作品の理解を通して、アメリカ文学と文化を説明するための多様な視点と自己の英文読解力とを身につける。作品の理解を通して、アメリカ文学文化が内包するさまざまな視点から、作品で登場している議題を発見し、自分自身の考察や他者と比較して相対化し、自分自身の批評を実践する。	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の理解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識を深く理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力) 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の理解を通して、自分自身の問題意識について深く考察し、意見を言うことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の理解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識をある程度理解することができる。(リテラシー)(専門的知識)(洞察力)(分析力) 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の理解を通して、自分自身の問題意識について考察し、ある程度意見を言うことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら調べ、発表し、意見を言うことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)
英語圏児童文学Ⅰ	文学学部 専門分野Ⅰ	2	1	英語圏の児童文学を書籍で読み、英文を正確に読解する力と自己の英文読解力とを身につける。「子ども」を取りまく文化について考える演習である。本演習では、よく知られている英語圏の児童文学の原書を確認し、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりの解釈や考察を発表する。各々が積極的かつ自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. 英語圏の児童文学を書籍や翻訳者手帳から取り出す力と自己の英文読解力とを身につける。(リテラシー) 2. 作品の背景を通して、興味のある点を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けていく。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う他の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。(論理的思考力) 4. 本科目のグループワークでは、他者と協力し、主体的に課題に取り組むことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)	1. 英語圏の児童文学を書籍や翻訳者手帳から取り出す力と自己の英文読解力とを身につける。(リテラシー) 2. 作品の背景を通して、興味のある点を見出し、能動的に作品を解釈する態度をある程度身に付けていく。(専門的知識)(洞察力)(分析力) 3. 本科目で扱う他の作品についての自分の解釈をある程度論理的に表現することができる。(論理的思考力) 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力し、課題に取り組むことができる。(主体的関与)(リーダーシップ)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目目標	到達目標 (到達内容)	到達目標 (到達内容)
英語圏児童文学文芸目録	文芸学部 専門分野1	2	1	英語圏の児童文学を背景で読み、読みを鑑賞・批評する力を養うと共に、「子ども」を取り巻く文化についてリテラシー能力を高める学習である。本演習では、よく知られている英語圏の児童文学の題名を精読し、文学史上の位置づけ、ジャンル、作品の背景となっている社会や文化について調べ、それらを踏まえた解釈や考察を発表する。各々が興味ある作品を深く読み、関係性を見、考察する能力を養う。	1.英語圏の児童文学を精読する実力力。英文学研究の根本を身に付けている。(リテラシー) 2.作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けている。(専門的知識) (読解力) (分析力) 3.本科目で扱う個々の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。(論理的思考力) 4.英語圏児童文学について研究テーマを見つけ、他者と協力しながらグループワークに取り組み、主体的に課題に関わることができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1.英語圏の児童文学を精読する実力力。英文学研究の根本を身に付けている。(リテラシー) 2.作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けている。(専門的知識) (読解力) (分析力) 3.本科目で扱う個々の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。(論理的思考力) 4.英語圏児童文学について研究テーマを見つけ、他者と協力しながらグループワークに取り組み、主体的に課題に関わることができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
フランス語フランス文学演習I	文芸学部 専門分野1	2	1	戯曲、小説、詩、エッセイ、漫画 (BD)、映画音楽、舞台芸術関係のテキストなど、平易なフランス語で書かれた文学・芸術作品を読み、朗読の初歩を学ぶ。フランス語で読書する際の資料検索方法も身につける。フランス語で書かれた作品世界を多面的かつ総合的に理解する。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. CEFR A1-1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる。(専門的知識) 2. フランス語のテキストを深く読解し、日本語で説明できる。(読解力・分析力) 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学、自国の文学と比較しながら、よく関係づけることができる。(論理的思考力) 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. CEFR A1-1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる。(専門的知識) 2. フランス語のテキストを深く読解し、日本語で説明できる。(読解力・分析力) 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学、自国の文学と比較しながら、よく関係づけることができる。(論理的思考力) 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的に見意見を言うことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
フランス語フランス文学演習II	文芸学部 専門分野1	2	1	戯曲、小説、詩、エッセイ、漫画 (BD)、映画音楽、舞台芸術関係のテキストなど、フランス語で書かれた文学・芸術作品を読み、朗読の初歩を学ぶ。フランス語を使って資料検索方法も身につける。フランス語で書かれた作品世界を多面的かつ総合的に理解する。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. CEFR A1-1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる。(専門的知識) 2. フランス語のテキストを深く読解し、日本語で説明できる。(読解力・分析力) 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学、自国の文学と比較しながら、よく関係づけることができる。(論理的思考力) 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. CEFR A1-1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる。(専門的知識) 2. フランス語のテキストを深く読解し、日本語で説明できる。(読解力・分析力) 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学、自国の文学と比較しながら、よく関係づけることができる。(論理的思考力) 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的に見意見を言うことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
日本演劇史各論A	文芸学部 専門分野1	2	2	古代から中世における日本の演劇 (芸術) の展開について論じる。本授業では、各芸術の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇能の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えられようとする。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. 古代から中世の日本の演劇 (芸術) について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 日本の演劇 (芸術) の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。(読解力・分析力) 3. 自分が関する芸術表現、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。(論理的思考力、リテラシー)	1. 古代から中世の日本の演劇 (芸術) における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 日本の演劇 (芸術) の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。(読解力・分析力) 3. 実際の芸術表現がある程度の関心を持って鑑賞することができる。(論理的思考力、リテラシー)
日本演劇史各論B	文芸学部 専門分野1	2	2	近世における日本の演劇 (芸術) の展開について論じる。本授業では、各芸術の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇能の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えられようとする。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. 近世の日本の演劇 (芸術) について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 日本の演劇 (芸術) の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。(読解力・分析力) 3. 自分が関する芸術表現、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。(論理的思考力、リテラシー)	1. 近世の日本の演劇 (芸術) における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 日本の演劇 (芸術) の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。(読解力・分析力) 3. 実際の芸術表現がある程度の関心を持って鑑賞することができる。(論理的思考力、リテラシー)
日本演劇史各論C	文芸学部 専門分野1	2	2	明治期から大正期までの日本演劇は様々な変化を遂げた。西洋化、近代化にはじまり大衆化と芸術性のバランスの取れた作品が多くなると同時に、その発展は近代の日本演劇について適切な内容を理解し、同時に共有的な問題意識についての認識をもたせようとする。	1. 明治期から大正期までの日本演劇における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につけることができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代の日本演劇の特徴を理解し、その自由を考察できるようになる。(読解力・分析力、論理的思考力)	1. 明治期から大正期までの日本演劇における大きな出来事や重要な人物、事項についてある程度の知識を身につけることができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代の日本演劇の特徴を理解し、その自由を考察できるようになる。(読解力・分析力、論理的思考力)
西洋演劇史各論A	文芸学部 専門分野1	2	2	古代から中世までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1. 古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して基本的知識・理解力・思考力を身につけることができる(専門的知識・幅広い教養) 2. 古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる。(読解力・分析力、論理的思考力)	1. 古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して基本的知識・理解力・思考力を身につけることができる(専門的知識・幅広い教養) 2. 古代から中世までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる。(読解力・分析力、論理的思考力)
西洋演劇史各論B	文芸学部 専門分野1	2	2	ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1. ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して高度な知識・理解力・思考力を身につけることができる(専門的知識・幅広い教養) 2. ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる。(読解力・分析力、論理的思考力)	1. ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して基本的知識・理解力・思考力を身につけることができる(専門的知識・幅広い教養) 2. ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる。(読解力・分析力、論理的思考力)
舞台芸術各論	文芸学部 専門分野1	2	2	演劇と空間設定とのかかわりについて学ぶ授業である。舞台美術について基本的な知識を身に付け、具体的な作品に即してその特性を考えていくとする。	1. 舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための確かな知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 具体的な作品の舞台美術について主体的に分析することができる。(読解力・分析力、主体的関与・論理的思考力)	1. 舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための基本的知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 具体的な作品の舞台美術についてある程度分析することができる。(読解力・分析力、主体的関与・論理的思考力)
現代美術各論A	文芸学部 専門分野1	2	2	19世紀後半から20世紀前半までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とするが、現代のグローバル化するなか、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしたのか、その内容はどのようなものであるか、従来の美術と何が異なるのか、そしてそれが今日を生かすわれわれにとってどのような意味をもっているのかを理解する。	1. 対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。(専門的知識) 2. 芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。(専門的知識) 3. 19世紀前半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. われわれ自身にとってどのような意味があるかを深く考察し、詳細に説明できる。(読解力・分析力・論理的思考力)	1. 対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的知識をもっている。(専門的知識) 2. 芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的知識をもっている。(専門的知識) 3. 19世紀前半までの美術との相違点について基本的知識を持ち、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. われわれ自身にとってどのような意味があるかを深く考察し、説明できる。(読解力・分析力・論理的思考力)
現代美術各論B	文芸学部 専門分野1	2	2	20世紀後半から21世紀までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とするが、現代のグローバル化するなか、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしたのか、その内容はどのようなものであるか、従来の美術と何が異なるのか、そしてそれが今日を生かすわれわれにとってどのような意味をもっているのかを理解する。	1. 対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。(専門的知識) 2. 芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。(専門的知識) 3. 20世紀後半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. われわれ自身にとってどのような意味があるかを深く考察し、詳細に説明できる。(読解力・分析力・論理的思考力)	1. 対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的知識をもっている。(専門的知識) 2. 芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的知識をもっている。(専門的知識) 3. 20世紀後半までの美術との相違点について基本的知識を持ち、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. われわれ自身にとってどのような意味があるかを深く考察し、説明できる。(読解力・分析力・論理的思考力)
建築史A	文芸学部 専門分野1	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は芸術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的認識は建築に適用されており、また建築も形もしばしば特定の建築空間に設置されること前提としているものもある。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようやその生み出す文化を理解する助けにもなる。この観点から、主として古代及び中世ヨーロッパの建築物のデザイン、構造、その発展とそれの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を得ることを目指す。	1. 主要な建築物や建築家を十分に理解できる。(専門的知識) 2. 建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。(専門的知識) 3. 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を的確に説明することができる。(読解力・分析力・論理的思考力)	1. 主要な建築物や建築家を理解できる。(専門的知識) 2. 建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。(専門的知識) 3. 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。(読解力・分析力) 4. 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(読解力・分析力・論理的思考力)
建築史B	文芸学部 専門分野1	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は芸術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的認識は建築に適用されており、また建築も形もしばしば特定の建築空間に設置されること前提としているものもある。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようやその生み出す文化を理解する助けにもなる。この観点から、主として近代及び近世ヨーロッパの建築物のデザイン、構造、その発展とそれの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を得ることを目指す。	1. 主要な建築物や建築家を十分に理解できる。(専門的知識) 2. 建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。(専門的知識) 3. 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。(読解力・分析力) 4. 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を的確に説明することができる。(読解力・分析力・論理的思考力)	1. 主要な建築物や建築家を理解できる。(専門的知識) 2. 建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。(専門的知識) 3. 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。(読解力・分析力) 4. 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。(読解力・分析力・論理的思考力)
造形理論	文芸学部 専門分野1	2	2	造形表現における基礎理論と技法を学び、作品を理解する能力の深化、高度化に資することを目的とする。造形理論、造形表現、図学などの基礎理論に加え、多様な材料、技法、支持体、それらの歴史の裏面を解説して、両方作品の構成要素と原理を学ぶ。	①視覚認知、情報のメカニズムの概要を十分に理解し、的確に説明できる。 ②黄金分割・前と後について十分に理解し、的確に説明できる。 ③幾何学図形の作用を十分に理解し、的確に説明できる。 ④透視図法を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑤色彩理論の概要を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑥造形理論の基礎を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑦材料学・彫刻の基礎知識を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑧絵画・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを十分に理解し、的確に説明できる。 ⑨写真撮影の原理を十分に理解し、的確に説明できる。(専門的知識・読解力・分析力・論理的思考力)	①視覚認知、情報のメカニズムの概要を理解し、説明できる。 ②黄金分割を理解し、説明できる。 ③幾何学図形の作用を理解し、説明できる。 ④透視図法を理解し、説明できる。 ⑤色彩理論の概要を理解し、説明できる。 ⑥造形理論を理解し、説明できる。 ⑦材料学・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを理解し、説明できる。 ⑧写真撮影の原理を理解し、説明できる。(専門的知識・読解力・分析力・論理的思考力)
文化資源学	文芸学部 専門分野1	2	2	文化資源学とは何か、文化活動の所産を包括的に扱う学問として文化財という語があるが、文化資源学はそれを多様な観点からとらえ直し、分析し、新たな価値や意味を見出すとする学問である。その考察の対象は有形と無形の両面に及ぶ。言語資料ももちろん、広義に及ぶ。それらどのような言語や意味を見出すことができるか、それを扱われわれの社会にとりよすがが、それらどのようにして継承し、時代に応じて受け継いでいくかについて、学び、考える。	①文化資源学という考え方を十分に理解している。 ②文化資源学の研究方法を十分に理解している。 ③文化資源の維持保存・伝承について詳細に理解している。(専門的知識・分析力) ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えを明確に持っている。(分析力・読解力・論理的思考力)	①文化資源学という考え方を理解している。 ②文化資源学の研究方法を理解している。 ③文化資源の維持保存・伝承について理解している。(専門的知識・分析力) ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えをもっている。(分析力・読解力・論理的思考力)
西洋美術史概論	文芸学部 専門分野1	2	1	美術史研究の基礎に不可欠な文献の理解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物などがどのように立っているのか、丹念に読みこなすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。西洋美術史概論では、西洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①西洋美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。(分析力・読解力・論理的思考力) ②学術文献の前提としている議論を十分に持っている。(専門的知識) ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。(分析力・読解力・論理的思考力)	①西洋美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。(分析力・読解力・論理的思考力) ②学術文献が前提としている知識をもっている。(専門的知識) ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。(分析力・読解力・論理的思考力)
日本美術史概論	文芸学部 専門分野1	2	1	美術史研究の基礎に不可欠な文献の理解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物などがどのように立っているのか、丹念に読みこなすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。日本美術史概論では、日本美術史および西洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①日本美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。(分析力・読解力・論理的思考力) ②学術文献の前提としている議論を十分に持っている。(専門的知識) ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。(分析力・読解力・論理的思考力)	①日本美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。(分析力・読解力・論理的思考力) ②学術文献が前提としている知識をもっている。(専門的知識) ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。(分析力・読解力・論理的思考力)
放送ドラマ各論A	文芸学部 専門分野1	2	2	テレビドラマの特性を考えながら、主として「ドラマ」にスポットを当て、「ドラマ」が時代の流れとどのように関わっているのか、丹念に読みこなすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。放送、演出といった制作背景や「ドラマ」の中核を担ってきた映像資料も活用しながら検証していくこととする。	1. テレビドラマと時代との関係について深い知識を身に付ける。(専門的知識) 2. テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていることが可能か主体的に考察することができるようになる。(読解力・分析力・論理的思考力)	1. テレビドラマと時代との関係についてある程度の知識を身に付ける。(専門的知識) 2. テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていることが可能か自分なりに考察することができるようになる。(読解力・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	年度	単位数	科目概要	科目目標 (到達目標)	科目目標 (到達目標)
				到達目標	到達目標	
放送ドラマ各論B	文芸学部 専門分野I	2	2	テレビのメディアの歴史において、テレビドラマは徐々に実用を上げてきた。時代リリアクして社会現象となった作品も少なくはない。本授業では視聴者や批評家、今なお人々の記憶に残っているドラマのいくつかを様々な角度から読み解いていく。また、技術的な進化、ドラマの作り手と視聴者との関係の進化などテレビドラマを取り巻く状況についての知識も深め、具体的な作品について考察するための手がかりを得る。	1. テレビドラマが現代の社会問題や流行を反映している事例を解説し、メディアとしての特性に深く関心をもつことができるようになる(専門的知識・幅広い教養) (論理的思考力、リテラシー) 2. 話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を主体的に考察するための手がかりを得る(洞察力・分析力)	1. テレビドラマが現代の社会問題や流行を反映している事例を解説し、基本的なメディアとしての特性を解説することができる(専門的知識・幅広い教養) (論理的思考力、リテラシー) 2. 話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を考察するための手がかりを得る(洞察力・分析力)
芸術環境	文芸学部 専門分野I	2	2	この授業では、演劇が芸術者によってどのように表現されているか、その環境はどのような理念と実践によって表現されているかを知り、一人ひとりがそれを考える役割として何が出来るかを考える。	演劇や芸術を成立させる環境について、具体的な知識を基に理解している。(専門的知識、幅広い教養) 将来的にどのような芸術環境があるべきか、現状の問題点を踏まえ、具体的に考えて論じることができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)	演劇や芸術を成立させる環境について、一通り理解している。(専門的知識、幅広い教養) 将来的にどのような芸術環境があるべきか、自分なりに考えて論じることができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)
音楽	文芸学部 専門分野I	2	2	西洋のクラシック音楽について学ぶ。授業ではさまざまな作曲家及び作品と対峙する。作曲家の生涯やその時代を踏まえようとして、多くのジャンルの作品を鑑賞し、西洋音楽について広く知ることを目的とする。	1. 西洋クラシック音楽の傑作ジャンルについて、授業で取り上げた作品の基本的な特徴を理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 授業で学んだことを踏まえて、強い関心をもって作品を鑑賞することができる。(洞察力・分析力、主体的関与、論理的思考力)	1. 西洋クラシック音楽の傑作ジャンルについて、それぞれの違いを理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 授業で学んだことを基として作品を鑑賞することができる。(洞察力・分析力、主体的関与、論理的思考力)
発声訓練法I	文芸学部 専門分野I	2	1	この授業は、声帯を通じて日本語の発音、その響きの美しさを認識することを目的とする。基礎となる発声方法から学び、文学作品を読み込んでいって適切な発声方法を習得していく。また、実際に文学作品を中心に読劇の実践を行い、文章の流れ、登場人物の人間性、服装描写、通訳などの理解を深め、音として作品の素晴らしさを体感する。	1. 積極的に授業に臨み、作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。(専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力) 2. 他の学生の演劇や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術をより深めることができる。(洞察力・主体的関与、リーダーシップ)	1. 授業で取り上げた作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。(専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力) 2. 他の学生の演劇や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術に生かすことができる。(洞察力・主体的関与、リーダーシップ)
発声訓練法II	文芸学部 専門分野I	2	1	この授業は、発声訓練法Iに続き、声帯を通じて日本語の発音、その響きの美しさを認識することを目的とする。発声訓練法Iで学んだ基礎をもとに、文学作品を読み込んでいって適切な発声方法をさらに習得していく。また、読劇や朗読を中心に読劇の実践を行い、文章の流れ、登場人物の人間性、服装描写、通訳などの理解を深め、音として作品の素晴らしさを体感する。	1. 発声訓練法Iに続き、積極的に授業に臨み、作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。(専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力) 2. 他の学生の演劇や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術をより深めることができる。(洞察力・主体的関与、リーダーシップ)	1. 授業で取り上げた作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。(専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力) 2. 他の学生の演劇や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術に生かすことができる。(洞察力・主体的関与、リーダーシップ)
舞台演習	文芸学部 専門分野I	2	2	演劇は演じる人と観る人が分かれたときに最も豊かになり変化した。「演じる」ということは演劇を成り立たせていくための重要なものである。例えば演劇を演じるだけでは、まだ演劇は成立しない。しかし演劇した瞬間、そこには演技が入り込む余地がある。演劇が成立する可能性がある。演劇研究の視点に「演じる」ということへの留意し、演劇が成立する可能性を探る。また、その演劇が成立する可能性を探る。また、その演劇が成立する可能性を探る。	1. 台本の内容を深く読み込み、魅力的に表現できるようにする。(専門的知識・幅広い教養) 2. 台本の内容を深く読み込み、魅力的に表現できるようにする。(専門的知識・幅広い教養) 3. 台本の内容を深く読み込み、魅力的に表現できるようにする。(専門的知識・幅広い教養)	1. 台本の役割を理解し、読み段階と演じる段階との高さを感受できるようにする。(専門的知識・幅広い教養) 2. 自らの理解を表現することがなぜ難しいのか考えられるようになる。(論理的思考力、洞察力・分析力) 3. 他者と協力することができる。(主体的関与・リーダーシップ)
書道I	文芸学部 専門分野I	2	1	書写教育の基礎となる「文字の活用」と「文字の表現美」を、書道史を辿りながら追求してゆく。特に、文字の美しから行書体に至るまでを筆、筆先、筆先、筆先、筆先の基本的な用筆法を学び、書写教育の基礎となる行書体の確実な実践力(毛筆力)を身につける。	1.毛筆(行書体)によるすぐれた表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構成美と表現について広くに理解できる。(専門的知識) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさをより深く鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)	1.毛筆(行書体)による表現技術がある程度習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構成美と表現美についてある程度理解できる。(専門的知識・洞察力) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさをある程度鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)
書道II	文芸学部 専門分野I	2	1	書写教育の基礎となる「文字の活用」と「文字の表現美」を、書道史を辿りながら追求してゆく。特に、楷書体の習得から行書体に至るまでを筆、筆先、筆先、筆先の基本的な用筆法を学び、書写教育の基礎となる行書体の確実な実践力(毛筆力)を身につける。	1.毛筆(楷書体)によるすぐれた表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構成美と表現について広くに理解できる。(専門的知識) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさをより深く鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)	1.毛筆(楷書体)による表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構成美と表現美について理解し、洞察できる。(専門的知識・洞察力) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさを一通り鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)
劇作術演習 AI	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術や観、人形劇の代表的な作品について理解を深める。テキストを読み、観劇も使いながら、各作品の特徴を鑑賞し、また作品の先行研究を取り上げ、作品へのアプローチの可能性を探る。	1. 古典劇のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを整理し、考察に生かすことができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究を踏まえて、作品に対する自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 古典劇のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究の内容を口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) (洞察力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重し、自分の意見も言えることができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 AII	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術演習AIに続き、観劇や観、人形劇の代表的な作品について理解を深める。テキストを読み、観劇も使いながら、各作品の特徴を鑑賞し、また作品の先行研究を取り上げ、作品へのアプローチの可能性を探る。	1. 劇作術演習AIに続き、古典劇のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを整理し、考察に生かすことができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究を踏まえて、作品に対する自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 古典劇のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究の内容を口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) (洞察力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重し、自分の意見も言えることができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 BI	文芸学部 専門分野I	2	1	日本の近代劇の戯曲を取り上げていく。明治期から大正末期までは外国の戯曲の影響をうけるが新しい演劇の要素を模索していた時期である。またそれと並行して新しい戯曲を十分に用いた状況でもなかった。同時代の資料も参照しながら、上演の現場も考えられるようになることをめざす。	1. 明治末期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての深く知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代劇の戯曲を多角的な視点をもって読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近代劇の戯曲について必要不可欠な知識を整理して独自に考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 明治末期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代劇の戯曲を正確に読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近代劇の戯曲について自ら考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 BII	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術演習BIに続き、日本の近代劇の戯曲を取り上げていく。明治期から大正末期までは外国の戯曲の影響をうけるが新しい演劇の要素を模索していた時期である。またそれと並行して新しい戯曲を十分に用いた状況でもなかった。同時代の資料も参照しながら、上演の現場も考えられるようになることをめざす。	1. 劇作術演習BIに続き、明治末期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての深く知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代劇の戯曲を多角的な視点をもって読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近代劇の戯曲について必要不可欠な知識を整理して独自に考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 明治末期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近代劇の戯曲を正確に読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近代劇の戯曲について自ら考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 CI	文芸学部 専門分野I	2	1	この演習では、西洋の名作戯曲を歴史的背景を踏まえつつ、様々な時代や文化、歴史の出来事によってどのように戯曲は変化するか、その方法論を踏まえながら議論する。	1. 西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代や周辺との関連を含めて理解し、具体的に詳述できるようにする。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代や周辺との関連を含めて一通り理解し、説明できるようにする。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 CII	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術演習CIに続き、この演習では、西洋の名作戯曲を歴史的背景を踏まえつつ、様々な時代や文化、歴史の出来事によってどのように戯曲は変化するか、その方法論を踏まえながら議論する。	1. 劇作術演習CIに続き、西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代や周辺との関連を含めて理解し、具体的に詳述できるようにする。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.劇作術演習CI 西洋の演劇作品について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代や周辺との関連を含めて一通り理解し、説明できるようにする。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 DI	文芸学部 専門分野I	2	1	宝塚歌劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1. 宝塚歌劇について主体的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について高度な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 宝塚歌劇について基本的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 DII	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術演習DIに続き、宝塚歌劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1. 宝塚歌劇DIに続き、宝塚歌劇について主体的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について高度な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 宝塚歌劇について基本的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識、幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 EI	文芸学部 専門分野I	2	1	この授業では映像作品を取り上げ、表現の特質や作品を研究するための基本的な知識を得る。	1. 映像作品を研究する上で必要となる専門的な考え方や知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 映像作品を鑑賞して深く考察し、説明することができる。(洞察力・分析力) 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をためえたり、感受を言葉で説明することができる。(論理的思考力、リテラシー) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 映像作品を研究する上で必要となる考え方や知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 映像作品を鑑賞して考察し、説明することができる。(洞察力・分析力) 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をためえたり、感受を言葉で説明することができる。(論理的思考力、リテラシー) 4. 他者と協力することができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作術演習 EII	文芸学部 専門分野I	2	1	劇作術演習EIに続き、この授業では映像作品を取り上げ、表現の特質や作品を研究するための基本的な知識を得る。	1. 劇作術演習EIに続き、映像作品を研究する上で必要となる専門的な考え方や知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 映像作品を鑑賞して深く考察し、説明することができる。(洞察力・分析力) 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をためえたり、感受を言葉で説明することができる。(論理的思考力、リテラシー) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 劇作術演習EIに続き、映像作品を研究する上で必要となる考え方や知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 映像作品を鑑賞して考察し、説明することができる。(洞察力・分析力) 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をためえたり、感受を言葉で説明することができる。(論理的思考力、リテラシー) 4. 他者と協力することができる。(主体的関与・リーダーシップ)
美術史演習 AI	文芸学部 専門分野I	2	1	日本美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を遂行する能力や技術を習得することを目的とする。具体的には、作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を深める。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもつことができる。(専門的知識・洞察力) ②表現形式についての十分な知識をもつことができる。(専門的知識・洞察力) ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査し、整理することができる。(分析力) ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもちある程度理解することができる。(専門的知識・洞察力) ②表現形式についての基本的な知識をもちある程度理解することができる。(専門的知識・洞察力) ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査し、整理することができる。(分析力) ④調査した事項をまとめて発表できる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（修得済否）	
					専門的知識・洞察力	総合的知識・洞察力
美術史演習 AH	文学学部 専門分野	2	1	美術史演習Aに続き、日本美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には、作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 BH	文学学部 専門分野	2	1	日本およびアジア諸地域の近現代美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には、作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての基本的な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 BH	文学学部 専門分野	2	1	美術史演習Bに続き、日本およびアジア諸地域の近現代美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には、作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	美術史演習Aに続き、①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 BH	文学学部 専門分野	2	1	美術史演習Bに続き、日本およびアジア諸地域の近現代美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には、作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	美術史演習Aに続き、①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 CI	文学学部 専門分野	2	1	ヨーロッパ（中南米およびアジア・アフリカの一部を含む）の美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての基本的な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 CI	文学学部 専門分野	2	1	美術史演習Cに続き、ヨーロッパ（中南米およびアジア・アフリカの一部を含む）の美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には作品を実際観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	美術史演習Aに続き、①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで詳細かつ広範に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文脈やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
ジェンダー各論A	文学学部 専門分野	2	2	欧米を中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考察する。	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分自身の意見を述べることができる（分析力・論理的思考力）	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べることができる（分析力・論理的思考力）
ジェンダー各論B	文学学部 専門分野	2	2	日本・アジアを中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考察する。	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分自身の意見を述べることができる（分析力・論理的思考力）	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べることができる（分析力・論理的思考力）
現代文化各論A	文学学部 専門分野	2	2	欧米を中心とする現代文化の特定の領域について、映画・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについてある程度説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現することができる程度までになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために応用することができる程度までになる（洞察力・論理的思考力）
現代文化各論B	文学学部 専門分野	2	2	日本・アジアを中心とする現代文化の特定の領域について、映画・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについてある程度説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現することができる程度までになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために応用することができる程度までになる（洞察力・論理的思考力）
歴史文化各論A	文学学部 専門分野	2	2	欧米を中心とする文化の多様性と個別性を、歴史学的視点から考察する。	1. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、深い知識を習得している（専門的知識） 2. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、高度な分析・考察ができる。自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性についての深い関心・意欲をもって授業に関与することができる（関心・意欲・態度）	1. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性について、基礎的な知識を習得している（専門的知識） 2. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性について分析・考察ができる。自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 欧米を中心とする文化の多様性・個別性について関心・意欲をもって授業に関与することができる（関心・意欲・態度）
歴史文化各論B	文学学部 専門分野	2	2	日本・アジアを中心とする文化の多様性と個別性を、歴史学的視点から考察する。	1. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、深い知識を習得している（専門的知識） 2. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、高度な分析・考察ができる。自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性についての深い関心・意欲をもって授業に関与することができる（関心・意欲・態度）	1. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について、基礎的な知識を習得している（専門的知識） 2. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について分析・考察ができる。自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個別性について関心・意欲をもって授業に関与することができる（関心・意欲・態度）
思想文化各論A	文学学部 専門分野	2	2	主に欧米系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、イギリス経験論や大陸合理論といった思考の方法論や、キリスト教、あるいは道徳主義や倫理の成立する背景と特長、さらには認識や概念における論理的・概念的な動き、フッサール現象学々々、さまざまなポストモダンタイプから分析・考察する。	1. 欧米系の哲学・思想を概観できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 設定されたポストモダンタイプを理解し、そこから対象となる事象を批判的に考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 4. 授業で扱った理解に基づいてレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	1. 欧米系の哲学・思想を概観できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 設定されたポストモダンタイプを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 4. 授業で扱った理解に基づいてレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
思想文化各論B	文学学部 専門分野	2	2	主にアジア系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、原始仏教とその後に関与する大乗あるいは小乗仏教や、インド哲学、孔孟あるいは老荘思想といった古代中国思想の思想観、さらには神道や独自に形成される日本人の精神たえは現生主義々々、さまざまなポストモダンタイプから分析・考察する。	1. アジア系の哲学・思想を概観できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 設定されたポストモダンタイプを理解し、そこから対象となる事象を批判的に考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 4. 授業で扱った理解に基づいてレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	1. アジア系の哲学・思想を概観できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 設定されたポストモダンタイプを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 4. 授業で扱った理解に基づいてレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
神話・民話各論A	文学学部 専門分野	2	2	主として欧米系の社会、文化における言説の伝承と伝播の経路をとり上げ、具体的な事例に則しつつ、その特徴を論じ、究明する。	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる（専門的知識） 2. その伝承と伝播が欧米系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く考察することができる（洞察力） 3. 特定の神話・民話作品について巧みに分析し、的確に論じることができる（分析力・論理的思考力）	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる（専門的知識） 2. その伝承と伝播が欧米系の社会、文化とどのような関係にあるのかを考察することができる（洞察力） 3. 特定の神話・民話作品について分析し、論じることができる（分析力・論理的思考力）
神話・民話各論B	文学学部 専門分野	2	2	主としてアジア系の社会、文化における言説の伝承と伝播の経路をとり上げ、具体的な事例に則しつつ、その特徴を論じ、究明する。	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる（専門的知識） 2. その伝承と伝播がアジア系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く考察し、自分の言葉で説明することができる（洞察力） 3. 特定の神話・民話作品について分析し、的確に論じることができる（分析力・論理的思考力）	1. 社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる（専門的知識） 2. その伝承と伝播がアジア系の社会、文化とどのような関係にあるのかを考察することができる（洞察力） 3. 特定の神話・民話作品について分析し、論じることができる（分析力・論理的思考力）
物語文化各論A	文学学部 専門分野	2	2	主として欧米系の文学作品を他のジャンル（映画、絵画、漫画、舞台芸術など）との関連から読み解く。	1. 主として欧米の物語文化についての具体的な知識をえている（専門的知識） 2. 主として欧米の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説明力をもって発表することができる（洞察力） 3. 授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（分析力・論理的思考力）	1. 作品名をいくつか挙げる（専門的知識） 2. 作品について基礎的な説明ができる（洞察力・分析力・論理的思考力）
物語文化各論B	文学学部 専門分野	2	2	主としてアジア系の文学作品を他のジャンル（映画、絵画、漫画、舞台芸術など）との関連から読み解く。	1. 主としてアジア系の物語文化についての具体的な知識をえている（専門的知識） 2. 主としてアジア系の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説明力をもって発表することができる（洞察力） 3. 授業で得た知識・考え方を、他分野の興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる（分析力・論理的思考力）	1. 作品名をいくつか挙げる（専門的知識） 2. 作品について基礎的な説明ができる（洞察力・分析力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	担当年次	単位数	科目名	科目内容(教科書等)	到達目標(到達期待)	到達目標(到達期待)
中国文化各論	文学学部 専門分野I	2	2		中国文化が東アジアの文化の広域、広域に及ぼしている役割は大きい。この科目ではそうした中国の文化の意義と役割に着目して、中国の文化の経緯、内実を考へ、現代文化を説明し手法を追究する。	1. 中国文化の経緯や内実について深く理解し、その価値を自分の言葉で述べることができる。(専門的知識) 2. 現代文化における中国の文化の経緯、広域に及ぼしている役割について深く理解し、知識を伝えることができる。(洞察力) 3. 現代文化における中国の文化の意義と意義について深く理解し、「いま・ここ」の分析と批判に役立てることができる。(分析力・論理的思考力)	1. 中国文化の経緯や内実、その価値を自分の言葉で述べることができる。(専門的知識) 2. 中国の文化の経緯、広域に及ぼしている役割を学び、その意義を述べることができる。(洞察力) 3. 中国の文化における漢字文化の意義と意義について、自分の言葉で考えを述べることができる。(分析力・論理的思考力)
地中海文化各論	文学学部 専門分野I	2	2		地中海文化は欧米社会の文化、文化の形成、展開に大きな影響を及ぼし続けている。この科目ではその具体的な論議を議論しつつ、地中海文化を見るまなざしを培う。	1. 地中海文化を深く理解し、具体例を挙げつつその意義、構造、性質を説明することができる(専門的知識・分析力) 2. 地中海文化が欧米社会の文化、文化に及ぼしている影響について深く理解し、自分の言葉でその関係を議論することができる(洞察力・論理的思考力)	1. 地中海文化を深く理解し、具体例を挙げつつその意義、構造、性質を説明することができる(専門的知識・分析力) 2. 地中海文化が欧米社会の文化、文化に及ぼしている影響について理解し、その関係を議論することができる(洞察力・論理的思考力)
文化研究の手法A	文学学部 専門分野I	2	2		物語の読解に関する基礎的な知識を身につけ、文学作品を分析することを学ぶ。	1. 物語を研究するために必要な知識が身についている(専門的知識) 2. 物語を研究するために必要な技法が身についている(リテラシー) 3. 知識、技法を用いて、物語の具体的な分析をし、説得力のある説明を述べることができる(洞察力・分析力) 4. 他者と意見を交換し、自分の考えを構築することができる(論理的思考力)	1. 物語を読解するための方法をいくつか挙げることができる(専門的知識) 2. 作品について説明することができる(洞察力・分析力) 3. 他者と意見を交換し、自分の考えを再度構築することができる(論理的思考力)
文化研究の手法B	文学学部 専門分野I	2	2		アンケート調査やインタビュー調査、フォーカドワークといった社会調査に関する基本的な知識と技術を学ぶ。	1. 社会学の調査方法を正しく理解できる(専門的知識) 2. 調査倫理について正しく理解できる(専門的知識) 3. アンケート、インタビュー、フォーカドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる(洞察力・分析力) 4. 分析結果を正しく考察することができる(論理的思考力)	1. 社会学の調査方法をおおむね理解できる(専門的知識) 2. 調査倫理について正しく理解できる(専門的知識) 3. アンケート、インタビュー、フォーカドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる(洞察力・分析力) 4. 分析結果を考察することができる(論理的思考力)
文化研究の手法C	文学学部 専門分野I	2	2		時代という文脈を踏まえて過去の事象を理解し、研究するための視座、基本的な知識と技術を学ぶ。	1. 歴史、思想を研究するために必要な知識が身についている(専門的知識) 2. 歴史、思想を研究するために必要な技法が身についている(洞察力・分析力) 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説得力のある説明を述べることができる(論理的思考力)	1. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な知識が身についている(専門的知識) 2. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な技法が身についている(洞察力・分析力) 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説明を述べることができる(論理的思考力)
思想文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1		グループワークを通じて、私たち日本人の生活世界の基盤にある「もの見方・考え方」を、主に思想と信仰の観点から考察する。Iではキリスト教および仏教それぞれ独自の思想的水脈が、いかに現代の私たち日本人の暮らしに流れ込み、影響を与えているのかを分析し検証する。最終的には神道をも参照に入れつつ、私たち日本人独自の「もの見方・考え方」や思想・信仰がどのように形成されてきたのか、その構造的意義を考察する。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの基本的思想、原始・大衆仏教の基本的思想、基本的な中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの基本的思想、原始・大衆仏教の基本的思想、基本的な中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5. 自ら有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6. 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ) 7. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆仏教の思想、中国思想を体系的に理解説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3. 理解した思想をもとに、日本人のものの考え方への影響と形成に際して自らの意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
思想文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1		グループワークを通じて、私たち日本人の生活世界の基盤にある「もの見方・考え方」を、主に思想と信仰の観点から考察する。IIでは神道および仏教(アイズ) それぞれの思想的水脈が、いかに現代の私たち日本人の暮らしに流れ込み、影響を与えているのかを分析し検証する。私たち日本人独自の「もの見方・考え方」や思想・信仰がどのように形成されてきたのか、その構造的意義を考察する。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆仏教の思想、中国思想を体系的に理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆仏教の思想、中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4. 理解した思想をもとに、日本人のものの考え方への影響と形成に際して、自らの有効な意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5. 自ら有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6. 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ) 7. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆仏教の思想、中国思想を体系的に理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3. 理解した思想をもとに、日本人のものの考え方への影響と形成に際して自らの意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
芸術社会演習I	文学学部 専門分野I	2	1		芸術社会を対象に、基礎的なテキスト・資料を読み解き、考察する。また発表、グループワーク、討論を通じて、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1. 作品や事象について適切に理解し説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象を適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 作品や事象を説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象とそれらに関連するデータを分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
芸術社会演習II	文学学部 専門分野I	2	1		芸術社会を対象に、基礎的なテキスト・資料を読み解き、考察する。また発表、討論を通じて、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1. 作品や事象について深く理解し説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象とそれらに関連するデータを適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 作品や事象を説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象とそれらに関連するデータを分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
物語文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1		国、ジャンルを問わず、文学作品(小説、映画、漫画など)を取り上げ、物語文化を考察する。文脈解し、グループ発表、討論を通じて意見を構築し、他人に伝える力を身につける。	1. 物語文化に関する批評についての知識をえている(専門的知識) 2. 作品を分析することができる(洞察力・分析力) 3. 調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 物語文化について基礎的な事象をあげることができる(専門的知識) 2. 発表、レポートを行う意思疎通の能力を身につけている(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
物語文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1		国、ジャンルを問わず、文学作品(小説、映画、漫画など)を取り上げ、物語文化を考察する。文脈解し、個人発表、討論を通じて意見を構築し、他人に伝える力を身につける。	1. 物語文化に関する批評についての知識をえている(専門的知識) 2. 作品を分析することができる(洞察力・分析力) 3. 調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 物語文化について事例をあげることができる(専門的知識) 2. 発表、レポートを行う意思疎通の能力を身につけている(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
比較文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1		国や時代の異なる文学作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を考察する。それについて個人発表することで、他人に伝える技術を磨く。	1. それぞれの基礎的な文学作品について、他の作品との違いや特色を把握し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文学作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. それぞれの基礎的な文学作品について、他の作品との違いや特色を把握し、自分の言葉で最低限、伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文学作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけ始めている。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)
比較文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1		国や時代の異なる文学作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を考察する。それについて個人発表することで、他人に伝える技術を磨く。	1. それぞれのやや複雑な文学作品について、他の作品との違いや特色を把握し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文学作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. それぞれのやや複雑な文学作品について、他の作品との違いや特色を把握し、自分の言葉で最低限、伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文学作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけ始めている。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)
歴史文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1		日本史の史料や歴史書などから、基礎的なテキストを読み解き、時代の理解を深める。	1. 日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、深い知識を習得している(専門的知識) 2. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを、正確に読み解くことができる(技能) 3. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学的方法論によって高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 日本史の研究全論に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、基礎的な知識を習得している(専門的知識) 2. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを読み解くことができる(技能) 3. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学的方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 日本史の研究全論に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
歴史文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1		日本史の史料や歴史書などから、基礎的なテキストを体系的に読み解き、時代と社会の理解を深める。	1. 日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、より深い知識を習得している(専門的知識) 2. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを、より正確に読み解くことができる(技能) 3. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学的方法論によってより高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 日本史の研究全論に対するより高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5. 他者と協力しながら、より主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、基礎的な知識を習得している(専門的知識) 2. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを読み解くことができる(技能) 3. 日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学的方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4. 日本史の研究全論に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
地中海文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1		地中海文化にかかわる基本的な文章を読み解き、それに基づいて地中海文化について考え、世界の他の地中海文化について議論するための知識を養い、基本的な知識を学ぶ。	1. 基本的な文章から地中海文化の意義、構造、特質を正確に読み取ることができる(専門的知識) 2. その知識を用いて、地中海文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 基本的な文章から地中海文化の意義、構造、特質を読み取ることができる(専門的知識) 2. その知識を用いて、地中海文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。

科目名称	科目区分	担当年次	単位数	科目概要	到達目標 (到達標準)	
					到達目標 (到達標準)	到達目標 (到達標準)
地中文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1	地中文化にかかわる基本的な学問的読解力、それらを用いて地中文化について考え、世界中の地中文化について議論するなどの基礎的知識、基本的な知識を養成できる。	1. 基本的な文章から地中文化の要素、構成、内容を正確に、かつ特徴的に読み取ることができる (専門的知識) 2. その特徴を用いて、地中文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. 基本的な文章から地中文化の要素、構成、内容を正確に読み取ることができる (専門的知識) 2. その特徴を用いて、地中文化と世界の関係について、説明することができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
現代文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1	現代文化のさまざまなあり方を、グループワークで、文脈、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて知り、明らかとした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1. 現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる (専門的知識) 2. みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる (洞察力・分析力) 3. 映像などのメディアを通して、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる (論理的思考力・リテラシー) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. 現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる (専門的知識) 2. みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を計画し、実行することができるようになる (洞察力・分析力) 3. 映像などのメディアを通して、自分が明らかにしたことを伝達することができるようになる (論理的思考力・リテラシー) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
現代文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1	現代文化のさまざまなあり方を、個人で、文脈、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて知り、明らかとした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1. 現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる (専門的知識) 2. みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる (洞察力・分析力) 3. 映像などのメディアを通して、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる (論理的思考力・リテラシー) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. 現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる (専門的知識) 2. みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を計画し、実行することができるようになる (洞察力・分析力) 3. 映像などのメディアを通して、自分が明らかにしたことを伝達することができるようになる (論理的思考力・リテラシー) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
中国文化演習I	文学学部 専門分野I	2	1	中国の基本的な文学作品に触れ、中国文化に出会う機会としつつ、中国のことにかかわらず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身が感じたことを表現する力を身につける。	1. 中国の基本的な文学作品をよく理解し、説明することができる (専門的知識) 2. 発表や質疑、またはレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. 中国の基本的な文学作品を一定程度理解し、説明することができる (専門的知識) 2. 発表や質疑、またはレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
中国文化演習II	文学学部 専門分野I	2	1	中国の基本的な文学作品に触れ、中国文化に出会う機会としつつ、中国のことにかかわらず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身が感じたことを表現する力を身につける。	1. 中国の基本的な文学作品を十分理解し、説明することができる (専門的知識) 2. 発表や質疑、またはレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. 中国の基本的な文学作品を一定程度理解し、説明することができる (専門的知識) 2. 発表や質疑、またはレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる (洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
メディアと文芸A	文学学部 専門分野I	2	2	メディアと文芸Aでは「放送メディア」について幅広く学ぶ。映像・音声メディアである放送は、数億〜数千万の人々に同時に視聴されるマス・メディアとして巨大産業へと発展し、日本の政治・社会・文化に大きな影響を与えてきた。その一方で放送は今日、デジタル化や「放送・通信の融合」、インターネット、ソーシャルメディア、携帯情報端末の普及といったメディア環境の急激な変化の中で、大きな転換期を迎えている。これらを背景に、本講義ではメディアとは何か、放送とは何かという基礎論を学ぶところから出発し、「送り手 (放送局、制作局)」、「受け手 (視聴者)」、「コンテンツ (番組)」それぞれの観点から、放送のあり方について多角的に検討し、放送のあるべき姿を模索、課題感を探り、理解する。	1. 放送をとりまく現代の状況について理解し、および実践的に理解・説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについて理解し、および実践的に理解・説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3. メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を講解したうえで総合的に説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1. 放送をとりまく現代の状況についての基本的な事項について理解・説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについての基本的な事項について理解・説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3. メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を講解したうえで総合的な説明ができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディアと文芸B	文学学部 専門分野I	2	2	メディアと文芸Bでは「出版メディア」に関する歴史や文化について幅広く学ぶ。出版文化は歴史的に、文学の発祥から写本時代、次に印刷を基礎として成り立ってきた。近年、デジタル化・ネットワーク化による出版形式自体も多様化し、出版の定義はますます拡大・複雑化している。出版は印刷されたものだけではなくデジタル化も進んでいる。こうした状況は、人々の読書のあり方や出版環境の急激な変化、著者・出版社・読者の関係性にも少なからぬ影響を与えている。そのほか、高度情報通信技術の発展、形勢・産業・デジタルなどの長所や短所などについて、あるいは高度情報通信技術の発展、インターネット・モバイルネットワークによる読者の読書環境の急激な変化など社会の動向について、歴史的に出版文化の発展に加え、複数のデジタル化・ネットワーク化による出版文化の発展を軸に、出版メディアをとりまく諸問題について理解する。	1. 出版メディアに関する歴史と文化について、その背景を含めて総合的に説明できる (専門的知識・洞察力) 2. 日本における出版流通の特色について、制度的な長所短所をふまえて、具体的な事例を挙げながら総合的に説明できる (専門的知識・洞察力) 3. 現代の出版文化をとりまきアナログ・デジタル・ネットワーク/パッケージ・コンテンツなどの特色をすべて把握し総合的に説明する (専門的知識・洞察力) 4. 読者の背景、出版と読者の関係、人々の読書など、出版メディアに関する相互の関係性や読者の反応について総合的に把握し総合的に説明できる (専門的知識・洞察力) 5. テーマに関する適切な資料を図書館やWebで入手し、レポート作成等に反映することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)	1. 出版メディアに関する歴史と文化について、基本的な事項を説明できる (専門的知識・洞察力) 2. 日本における出版流通の特色について、代表的な事例を挙げつつ最低限の説明ができる (専門的知識・洞察力) 3. 現代の出版文化をとりまきアナログ・デジタル・ネットワーク/パッケージ・コンテンツの特色のうち数個について最低限の説明ができる (専門的知識・洞察力) 4. 読者の背景、出版と読者の関係、人々の読書など、出版メディアに関する相互の関係性や読者の反応について基本的な説明ができる (専門的知識・洞察力) 5. テーマに関する適切な資料を図書館やWebで入手し、レポート作成等に反映することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)
メディアと文芸C	文学学部 専門分野I	2	2	芸術全体史の歴史的背景とメディア論の視点からの芸術への視座について理解する。特に、複製可能なメディアによる芸術表現の今日的な意味づけの可能性について理解し、表現の一回性を有する伝統的な芸術作品との対比を考察する。すなわち、高度情報通信技術の発展、形勢・産業・デジタルなどの長所や短所などについて、あるいは高度情報通信技術の発展、インターネット・モバイルネットワークによる読者の読書環境の急激な変化など社会の動向について、歴史的に出版文化の発展に加え、複数のデジタル化・ネットワーク化による出版文化の発展を軸に、出版メディアをとりまく諸問題について理解する。	(1) 文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (2) 複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (3) コミュニケーションおよびネットワーク化による変化を捉えとらえることができる (洞察力) (4) 新しいメディア表現・メディア操作を通じて、たとえば精神分析やジェンダー論に関する知識を習得し、応用できる (専門的知識・洞察力) (5) 新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物議の深層を捉えとらえることができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1) 文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (2) 複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (3) コミュニケーションおよびネットワーク化による変化を捉えとらえることができる (洞察力) (4) 新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物議の深層を捉えとらえることができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア文化論A	文学学部 専門分野I	2	2	本講義では、雑誌という媒体が政治・経済などの社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連しながらどのように変容してきたかに注目し、メディア文化研究のための基礎的な力を身につけることを目指す。雑誌がどのように企業・制作され、発表され、人々に受けとられ、アイデンティティ形成に寄与するか、あるいはさまざまなプロセスを経る過程が、作り手や読者、専門家のさまざまな主体にも日記り、文化としての雑誌の位置づけや意義を捉え、雑誌は読者の嗜好性、嗜好性などに読者を想定したメディアであり、ジェンダー規範の分析や学際的である。	(1) マスメディアとしての雑誌の機能や特性、生産・消費のプロセスを高いレベルで理解している (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 雑誌文化が社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連して成立していることを理解し、自分で事例を挙げながら説明することができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3) メディア・ジェンダーという観点から雑誌文化を多角的に分析することができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1) マスメディアとしての雑誌の機能や特性、生産・消費のプロセスを最低限必要なレベルで理解している (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 雑誌文化が社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連しながら成立してきたことを理解している (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3) メディア・ジェンダーという観点から雑誌文化を多角的に分析することができる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア文化論B	文学学部 専門分野I	2	2	メディア文化やカルチュラル・スタディーズを含むメディア文化研究の視座をめぐり、新聞、雑誌、ラジオ、映画、テレビといったマスメディアや、インターネットやSNSでのソーシャルメディアが歴史の中でどのように変容してきたかに注目し、メディア文化研究のための基礎的な力を身につけることを目指す。雑誌がどのように企業・制作され、発表され、人々に受けとられ、アイデンティティ形成に寄与するか、あるいはさまざまなプロセスを経る過程が、作り手や読者、専門家のさまざまな主体にも日記り、文化としての雑誌の位置づけや意義を捉え、雑誌は読者の嗜好性、嗜好性などに読者を想定したメディアであり、ジェンダー規範の分析や学際的である。	1. メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアごとの総合的な説明をすることができる (専門的知識・洞察力) 2. メディア文化研究の知識や方法を論議を習得し、総合的に説明することができる (専門的知識・洞察力) 3. インターメディアリズムやメディアの新しい機能について論議的に説明できる (専門的知識・洞察力) 4. SNSとコミュニケーションの効果的議論と文化符号論的視点の特色について理解し、説明することができる (専門的知識・洞察力) 5. テーマに関する適切な資料を図書館やWebで入手し、レポート作成等に反映することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)	1. メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアの一部に関して基本的な説明をすることができる (専門的知識・洞察力) 2. メディア文化研究の知識と方法を論議し、基本的な事項について理解できる (専門的知識・洞察力) 3. インターメディアリズムやメディアの新しい機能について基本的な説明をすることができる (専門的知識・洞察力) 4. SNSとコミュニケーションの効果的議論と文化符号論的視点の特色について理解し、基本的な説明をすることができる (専門的知識・洞察力) 5. テーマに関する適切な資料を図書館やWebで入手し、レポート作成等に反映することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア文化論C	文学学部 専門分野I	2	2	メディアとしての「広告」とは、どのような種類のものか、何を (広告内容) 誰に (広告ターゲット) どのように (広告戦略および表現) 何のために (広告目的) 伝達しようとするものか、そしてその社会的役割とは何かをめぐりながら「読者」を、その際、受容者の生活や消費者との間に瞬間に成立するコミュニケーションの性質を考察する。またさまざまな高度のプラットフォームの特徴と意味、さらに広告にのみならずメディア全般の文化的・社会的・経済的・政治的・法的に分析し考察する。多様な広告ジャンルのなかで、どこに広告を配置するかによって効果の仕方が変わるであろうが、可能な限り身近な広告を例として制作の技術的側面も詳細に説明する。	(1) メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる (専門的知識・洞察力) (2) 広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (3) 受容者との関係に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し説明できる。他のコミュニケーションとは異なる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4) ブランディングとは何かを説明し、さらには商品やブランドの特性と意味を考察できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (5) 表裏文化論および記号論と何か、理解し説明できる (専門的知識・洞察力) (6) 方法論としての表裏文化論および記号論を講義し、分析技法に活用できる (専門的知識・洞察力・分析力)	(1) メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる (専門的知識・洞察力) (2) 広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる (専門的知識・洞察力) (3) 受容者との関係に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し、説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4) ブランディングとは何かを説明し、さらには商品やブランドの特性と意味を考察できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
図書館論	文学学部 専門分野I	2	2	伝統的な社会機関としての図書館について、その意義・機能や歴史、基本的機能と構成要素について知り、図書館の機能とその社会的役割、図書館のサービス活動について概観し、図書館その機能についての理解を深めることとする。また情報化、国際化が進む社会における役割、生涯学習社会における代々の社会的な教育機関としての役割など図書館が果たすべき社会的役割を考察する。	図書館の存在意義、機能、および社会の中での役割について体系的に理解し、それを他者に説明できる (専門的知識・洞察力) 図書館の歴史やサービス活動について体系的に理解し、それを他者に説明できる (専門的知識・洞察力) 図書館が情報社会における役割について体系的に理解し、それを他者に説明できる (専門的知識・洞察力) 図書館が情報社会の入門科目である本質と図書館が情報社会の他の科目と関連を体系的に理解し、専門用語を用いて他者に説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	図書館の存在意義、機能、および社会の中での役割について最低限の説明ができる (専門的知識・洞察力) 図書館の歴史やサービス活動について最低限の説明ができる (専門的知識・洞察力) 図書館が情報社会における役割について最低限の説明ができる (専門的知識・洞察力) 図書館が情報社会の入門科目である本質と図書館が情報社会の他の科目と関連を体系的に理解し、専門用語を用いて他者に説明できる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
自己表現実習	文学学部 専門分野I	2	1	人生を振り返りつつ「私」について語ること (自己語り)、相手に認めてもらうために行う表裏 (自己表示)、相手とのコミュニケーションを想定した表現形式 (3)の側面から自己表現を捉える実践を行う。自分の語りについての理論的思考と分析批判、アトド・フォーマンズの社会的な分析とオーディエンス分析、オーディエンス企画、プレゼンテーション技術の実践、という構成で自己表現を学べるだけでなく自らのプレゼンテーションを行う。	(1) 自分史の語りについての理論的な把握ができる (専門的知識) (2) 自分史を素直に表現し相手に受けとらえることができる (分析力・論理的思考力) (3) アトド・フォーマンズの社会的な分析について理解できる (専門的知識) (4) オーディエンスを想定した強制的な役割のあるオーディエンス企画を企画できる (洞察力・分析力) (5) プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している (専門的知識) (6) プレゼンテーションの基礎的なスキルを応用して学んでいる (専門的知識)	(1) 自分史の語りについての理論的な把握ができる (専門的知識) (2) 自分史を素直に表現し相手に受けとらえることができる (分析力・論理的思考力) (3) アトド・フォーマンズの社会的な分析について理解できる (専門的知識) (4) オーディエンスを想定したオーディエンス企画を企画できる (分析力・洞察力) (5) プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している (専門的知識)











科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目目標	到達目標 (到達目安)	到達目標 (到達目安)
フランス語コミュニケーション演習 AI	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。目的によく使う表現を身につけ、「聞くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語が使われている異文化を想像してみる。そのために視覚教材やインターネットも利用して、フランス人の考えを知る。教養教育科目の「フランス語Ⅰ(入門)」・「フランス語Ⅲ(表現)」を修得済み、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの会話の場面で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の場面で簡単な文を理解することができる(論理的思考力)。 4. フランス語の口頭表現から、フランス語の特徴、協力しながら、主体的によく説明することができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの会話の場面で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の場面に積極的に参加することができる(論理的思考力)。 4. フランス語の口頭表現から、フランス語の特徴、協力しながら、主体的によく説明することができる(主体的関与・リーダーシップ)。
フランス語コミュニケーション演習 BI	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。自己表現のスキルを身につけ、「聞くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語が使われている異文化を想像してみる。そのために視覚教材やインターネットも利用して、フランス人の考えを知る。教養教育科目の「フランス語Ⅰ(入門)」・「フランス語Ⅲ(表現)」を修得済み、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話の場面で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の場面に積極的に参加することができる(論理的思考力)。 4. フランス語の口頭表現(CEFR A1完成レベル)から、フランス語の特徴、協力しながら、主体的によく説明することができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話の場面で簡単な文を理解することができる(専門的知識)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の場面に積極的に参加することができる(論理的思考力)。 4. フランス語の口頭表現から、フランス語の特徴、協力しながら、主体的によく説明することができる(主体的関与・リーダーシップ)。
フランス語ファンタズ文学演習 III	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語学、フランス語圏の文学または文化に関する分野から、卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。資料収集と研究方法を学ぶ。フランス語での資料検索方法の基礎も身につける。身に付け、模範のプログラムで多岐にわたる方法の糸口を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文の作成に必要なスキルを身に付ける。同時にフランス文学について、既存の解釈や読解を身に付け、主体的にフランス語圏の文化・芸術・文芸・歴史・言語・文学・文化を研究する。卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。資料収集と研究方法を学ぶ。フランス語での資料検索方法の基礎も身につける。身に付け、模範のプログラムで多岐にわたる方法の糸口を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文の作成に必要なスキルを身に付ける。同時にフランス文学について、既存の解釈や読解を身に付け、主体的にフランス語圏の文化・芸術・文芸・歴史・言語・文学・文化を研究する。卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。資料収集と研究方法を学ぶ。こ	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識およびフランス語の知識を持っている(専門的知識)。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチに習熟している(洞察力・分析力)。 3. 卒業論文の課題で取り下りる論点を複数見出すことができる(洞察力・分析力)。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べ、体系的にクラスメイトと情報的意見交換することができる(主体的関与・リーダーシップ)。 5. 批評的精神をもって研究対象を扱うことができる(論理的思考力)。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識およびフランス語の知識を持っている(専門的知識)。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチにおおむね習熟している(洞察力・分析力)。 3. 卒業論文の課題で取り下りる論点を複数見出すことができる(洞察力・分析力)。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料収集、整理、読解し、卒業論文の計画を述べ、体系的にクラスメイトと情報的意見交換することができる(主体的関与・リーダーシップ)。 5. 批評的精神を理解し、研究対象を扱うことができる(論理的思考力)。
フランス語ファンタズ文学演習 IV	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語学、フランス語圏の文学または文化に関する分野から、卒業論文のテーマと題材を見出すためのアプローチを学ぶ。資料収集と研究方法を学ぶ。フランス語での資料検索方法の基礎も身につける。身に付け、模範のプログラムで多岐にわたる方法の糸口を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文の作成に必要なスキルを身に付ける。同時にフランス文学について、既存の解釈や読解を身に付け、主体的にフランス語圏の文化・芸術・文芸・歴史・言語・文学・文化を研究する。卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。資料収集と研究方法を学ぶ。こ	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識、およびそれを解し出すためのフランス語運用力を持っている(専門的知識)。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチに習熟している(洞察力・分析力)。 3. 卒業論文の課題で取り下りる論点を複数見出すことができる(洞察力・分析力)。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べ、体系的にクラスメイトと情報的意見交換することができる(主体的関与・リーダーシップ)。 5. 批評的精神をもって研究対象を扱うことができる(論理的思考力)。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識、およびそれを解し出すためのフランス語の運用力を持っている(専門的知識)。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチにおおむね習熟している(洞察力・分析力)。 3. 卒業論文の課題で取り下りる論点を複数見出すことができる(洞察力・分析力)。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料収集、整理、読解し、卒業論文の計画を述べ、体系的にクラスメイトと情報的意見交換することができる(主体的関与・リーダーシップ)。 5. 批評的精神を理解し、研究対象を扱うことができる(論理的思考力)。
現代演劇論	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本演劇史の断片から平成期に至るまでの歴史をたどる。その過程で戦後下における国民文化の形成、戦後の復興期の芸術・演劇の振興と戦後の復興期において日本人にとって演劇がどのような存在であったのかを考察することも行う。演劇史について体系的な知識を身に付けるとともに演劇に時代とのかかわりについて意識をたもてるようになることを目指す。	昭和期から平成期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 近代の日本演劇の担ってきた問題を理解し、その理由を考察できるようにする。(洞察力・分析力、論理的思考力)	昭和期から平成期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 近代の日本演劇が抱えてきた問題を理解し、その背景との関連を考察する提案をもてるようになる(洞察力・分析力、論理的思考力)
演劇論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	西洋における古代から近代までの演劇演進の歴史をたどる。創作の成立する背景にある思想を理解した上で、個々の具体的作品を理解することを目的とする。	古代から近代までの西洋演劇の歴史を十分に理解している。(専門的知識・幅広い教養) 思想を十分に理解した上で古代から近代までの西洋演劇の作品を説くことができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)	古代から近代までの西洋演劇の歴史をある程度理解している。(専門的知識・幅広い教養) 思想をある程度理解した上で古代から近代までの西洋演劇の作品を説くことができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)
演劇論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	西洋における近代から現代の演劇演進の歴史をたどる。創作の成立する背景にある思想を理解した上で、個々の具体的作品を理解することを目的とする。	近現代の西洋演劇の歴史を十分に理解している。(専門的知識・幅広い教養) 思想を十分に理解した上で近現代の西洋演劇の作品を説くことができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)	近現代の西洋演劇の歴史をある程度理解している。(専門的知識・幅広い教養) 思想をある程度理解した上で近現代の西洋演劇の作品を説くことができる。(洞察力・分析力、論理的思考力)
舞踏論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本の舞踏における舞踏の様々な表現と意味について考察を行う。最先端の創作にも触れるが、現代における伝統的舞踏の意義と価値、その評価・審美・批判的基準、舞踏の見方など、そこに關わる様々な意義・日本文化の姿を考察する。	舞踏や舞踏史、それらに関わる舞踏総合情報から、古来より日本人が表現しようとした文化、美意識を十分に論理的に思考することができる。(洞察力・分析力) 日本の古典舞踏に關する視点も修得出来るようになる。(論理的思考力、リテラシー)(専門的知識・幅広い教養)	舞踏や舞踏史、それらに関わる舞踏総合情報から、古来より日本人が表現しようとした文化、美意識について自分らの意見を述べることができる。(洞察力・分析力) 日本の古典舞踏に関心を向けられるようになる。(論理的思考力、リテラシー)(専門的知識・幅広い教養)
舞踏論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	クラシック・バレエを中心に、西洋の舞踏の歴史と作品を学ぶ。16世紀の宮廷・バレエをはじめとし、劇場作品として発展したロマンティック・バレエの発展、19世紀後半から20世紀初頭のバレエの発展、現代におけるバレエの発展など、その全体像と方法論を考察する必要を学ぶ。舞踏と西洋演劇の基本的知識を習得し、舞台芸術全般、あるいは身体的表現の全体の中に位置づけられていくことを意識する。	歴史から現代までのバレエの発展と、背景を具体的に説明できるようにする。(専門的知識・幅広い教養) 舞踏史・舞踏論の発展を学ぶ。舞踏史や舞踏論の発展を学ぶ。自分なりのテーマ、アプローチ方法で具体的な考察をできるようにする。(洞察力・分析力、論理的思考力)	歴史から現代までのバレエの発展と、背景をある程度説明できるようにする。(専門的知識・幅広い教養) 舞踏史・舞踏論の発展を学ぶ。舞踏史や舞踏論の発展を学ぶ。自分なりのテーマ、アプローチ方法で具体的な考察をできるようにする。(洞察力・分析力、論理的思考力)
劇場論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本の劇場についての基本的な歴史を把握し、現代における劇場の発展について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	日本の劇場の歴史と発展について体系的な考察ができる。(専門的知識・幅広い教養) 高度な知識・理解力・思考力を身につけている。(洞察力・分析力、論理的思考力)	日本の劇場についての基礎的知識に基づき、主体的な考察ができる。(専門的知識・幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力)
劇場論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	西洋の劇場についての基本的な歴史を把握し、劇場の実態について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	西洋の劇場の歴史と発展について体系的な考察ができる。(専門的知識・幅広い教養) 高度な知識・理解力・思考力を身につけている。(洞察力・分析力、論理的思考力)	西洋の劇場についての基本的な知識に基づき、ある程度主体的な考察ができる。(専門的知識・幅広い教養、洞察力・分析力、論理的思考力)
映画論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本・製作・上映される様々な映画の、様々な映画論についての知識を深める。映画論、アニメーション映画、ドキュメンタリー映画、実験映画を鑑賞しつつ、映画表現の分析手法、映画制作のプロセスについての知識を得る。また映画論を通じて社会や歴史について考える方法を習得する。	映画に關する幅広い知識を習得する。(専門的知識) 映画を見つめる視座を豊かにし、映画についての考察や好みも自ら見出すことができる。(論理的思考力、リテラシー) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力)	人間について知りたくなるとさまざまな映画のジャンル・形態について幅広い知識を身につけている(専門的知識・幅広い教養) 映画をみる習慣について、1つ以上の方法で工夫をこらさなければならない(論理的思考力、洞察力・分析力)。
映画論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	外国映画の歴史や映画表現の特徴について、具体的な作品に絡めながら理解する。映画が文学や演劇、その他の芸術と同様に一つの表現媒体であることを読み取り、考察する対象として意識することを習得する。	異文化の外国映画の作品に親しみ、その歴史的背景や多様な視点で考察できる(専門的知識・幅広い教養) 外国映画の作品を通じて映画表現の発展について知識を積み、自分の考えを表現できるようにする(洞察力・分析力、論理的思考力)	異文化の外国映画の作品に親しみ、その歴史的背景や多様な視点で考察できる(専門的知識・幅広い教養) 外国映画の作品を通じて映画表現の特徴を理解し、自らの考えを表現できるようにする(洞察力・分析力、論理的思考力)
劇作演習 AIII	文芸学部 専門分野 II	3	1	劇作演習AⅠ・Ⅱで学んだ内容をふまえて、考察・発表の授業を履修していく。卒業論文を書く前の段階として、劇作演習作品やテーマを取り上げて取り組む手法を身に付け意識を高める。本授業では教養教育を中心に据え、映画の分析、論文の読解、資料の整理などを経て、作品に考察を加え、レポートの執筆となる。やや専門的な教養性資料にも触れる機会を持つ。たい。	教養に關する文字資料や映画資料を用いて、多角的に作品を理解し、把握することができる。(専門的知識・幅広い教養) 自身の考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 意見交換の中で、自分の考えを述べることができる。(論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	教養に關する文字資料や映画資料を用いて、作品理解に役立てることができる。(専門的知識・幅広い教養) 自分に関心したテーマを定め、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 意見交換の中で、自分の考えを述べることができる。(論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作演習 AIV	文芸学部 専門分野 II	3	1	劇作演習AⅠに続き、考察・発表の授業を履修していく。卒業論文を書く前の段階として、劇作演習作品やテーマを取り上げて取り組む手法を身に付け意識を高める。本授業では教養教育を中心に据え、映画の分析、論文の読解、資料の整理などを経て、作品に考察を加え、レポートの執筆となる。やや専門的な教養性資料にも触れる機会を持つ。たい。	日本の演劇家とその活動に関する知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の演劇家とその活動について知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作演習 BIII	文芸学部 専門分野 II	3	1	日本の近代史の発展を振り返り、様々な思想や文化を習得していく。作者が上演台本として何を書き、何を伝えようとした作品であるのかを考察的に読み取ることが出来る。上演台本の上演についての考察も進められるようにする。必要な資料の収集と分析、演劇状況についての知識もその過程で身につけていくこととする。	日本の演劇家とその活動に関する知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の演劇家とその活動について知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作演習 BIV	文芸学部 専門分野 II	3	1	劇作演習BⅠに続き、日本の近代史の発展を振り返り、様々な思想や文化を習得していく。作者が上演台本として何を書き、何を伝えようとした作品であるのかを考察的に読み取ることが出来る。上演台本の上演についての考察も進められるようにする。必要な資料の収集と分析、演劇状況についての知識もその過程で身につけていくこととする。	日本の演劇家とその活動に関する知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の演劇家とその活動について知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の演劇について深く考察することができる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇作演習 CIII	文芸学部 専門分野 II	3	1	近代から現代まで、様々なテーマによって演劇作品・戯曲作品とその思想と歴史から理解し、理解することを目的とする。それによって現在の演劇のあり方を相対化し、個々の作品を多角的に考察する。	劇作作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について十分な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景について十分に説明できる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	劇作作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について体系的な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景について十分な程度説明できる。(洞察力・分析力) 自分が見ていると感じていること、自分自身の「好み」を言葉で表現して書く機会を身につけることができる。(洞察力・分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)



科目名称	科目区分	担当年次	単位数	科目概要	科目目標 (到達目標)	科目目標 (到達目標)
					科目目標 (到達目標)	科目目標 (到達目標)
音楽文化論 A	文学部 専門分野 II	3	2	ポピュラー音楽の歴史と、それがファッションなどの若者文化にさまざまな形で与えてきた影響を、映像・音楽・文学作品などを用いて見てゆくことで、ますます多様化する現代の音楽ジャンル・消費の様式・ファン文化のあり方などについて考えるきっかけとなるようにする。	1.ポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化について正確に説明できるようにする (専門的知識) 2.過去の音楽と若者文化のあり方についての知識に基づいて、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる (洞察力・分析力) 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。	1.ポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化についてある程度正確に説明できるようにする (専門的知識)。 2.過去の音楽と若者文化のあり方についての知識に基づいて、みずから問いを立て、考察し、それをある程度表現できるようにする (洞察力・分析力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために応用することができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。
音楽文化論 B	文学部 専門分野 II	3	2	20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それがファッションなどの若者文化にさまざまな形で与えてきた影響を、映像・音楽・文学作品などを用いて見てゆくことで、ますます多様化する現代の音楽ジャンル・消費の様式・ファン文化のあり方などについて考えるきっかけとなるようにする。	1.20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化について正確に説明できるようにする (専門的知識) 2.20世紀から現代に至る音楽と若者文化のあり方についての知識に基づいて、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる (洞察力・分析力) 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。	1.20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化についてある程度正確に説明できるようにする (専門的知識) 2.20世紀から現代に至る音楽と若者文化のあり方についての知識に基づいて、みずから問いを立て、考察し、それをある程度表現できるようにする (洞察力・分析力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために応用することができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。
芸術社会学 A	文学部 専門分野 II	3	2	「アート」の名で知られる、現代のさまざまな表現を対象とし、それらと社会との関わりについて考える講義である。Aでは地域 (場所) とアートの関係に注目しながら、背景となる文化政策の動向や社会状況を、最新のテキストや映像とともに考察する。	1.現代アートの概況とその事例、地域の観点から社会課題について正確に説明することができる (専門的知識) 2.作品やプロジェクトを社会的文脈のもとで分析することができる (洞察力・分析力) 3.分析結果を適切に表現することができる (論理的思考力)	1.現代アートの概況とその事例について説明することができる (専門的知識) 2.作品やプロジェクトを分析することができる (洞察力・分析力) 3.分析結果を表現することができる (論理的思考力)。
芸術社会学 B	文学部 専門分野 II	3	2	「アート」の名で知られる、現代のさまざまな表現を対象とし、それらと社会との関わりについて考える講義である。Bでは個人とアートの関係に注目しながら、背景となる文化政策の動向や社会状況を、最新のテキストや映像とともに考察する。	1.現代アートの概況とその事例、個人の観点から社会課題について正確に説明することができる (専門的知識) 2.作品やプロジェクトを社会的文脈のもとで分析することができる (洞察力・分析力) 3.分析結果を適切に表現することができる (論理的思考力)	1.現代アートの概況とその事例について説明することができる (専門的知識) 2.作品やプロジェクトを分析することができる (洞察力・分析力) 3.分析結果を表現することができる (論理的思考力)。
現代思想論 A	文学部 専門分野 II	3	2	Aでは、20世紀から始まる西洋現代思想の展開のうち、現象学・実存主義・マルクス主義といった各思想を説明・概観し、考察する。次いで、現代に生じる哲学として「心と身体」「哲学における死の問題」「人間の社会性」といった各種テーマを設定し、説明・考察する。	1.現代思想が展開する背景を概観し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.現象学とその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.実存主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.マルクス主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.プラクティシズムとその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 6.倫理主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 7.分析哲学とその影響を基本的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 8.現代に行き着く哲学として設定された各種テーマについて思考し、考察することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 9.哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.現代思想とは何かを説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.現象学とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.実存主義とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.構造主義とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.哲学的な思考のもと、哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
現代思想論 B	文学部 専門分野 II	3	2	Bでは、20世紀から始まる西洋現代思想の展開のうち、プラクティシズム・構造主義・分析哲学といった各思想を説明・概観し、考察する。次いで、現代に生じる哲学として「心と身体」「哲学における死の問題」「人間の社会性」といった各種テーマを設定し、説明・考察する。	1.現代思想が展開する背景を概観し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.現象学とその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.実存主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.マルクス主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.プラクティシズムとその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 6.倫理主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 7.分析哲学とその影響を専門的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 8.現代に行き着く哲学として設定された各種テーマについて思考し、考察することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 9.哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.現代思想とは何かを詳細に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.現象学とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.実存主義とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.構造主義とは何かを専門的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.哲学的な思考のもと、哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
歴史文化論 A	文学部 専門分野 II	3	2	文化のもつ重要性および可能性と歴史性、筆記物と複製を素材に歴史学上の視点から考察する。	1.文化の重要性および可能性と歴史性について、文書品に関する深い知識を習得している (専門的知識)。 2.文化の重要性および可能性と歴史性について、高度な分析・考察ができ、文書品に関する自らの見解を述べることができる (洞察力・分析力・論理的思考力)。 3.文化の重要性および可能性と歴史性について、文書品に関する深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる (主体的関与)。	1.文化の重要性および可能性と歴史性について、文書品に関する知識を習得している (専門的知識)。 2.文化の重要性および可能性と歴史性について、分析・考察ができ、文書品に関する自らの見解を述べることができる (洞察力・分析力・論理的思考力)。 3.文化の重要性および可能性と歴史性について、文書品に関する関心・意欲をもって授業に臨むことができる (主体的関与)。
歴史文化論 B	文学部 専門分野 II	3	2	文化のもつ重要性および可能性と歴史性、身近な生活文化を素材に歴史学上の視点から考察する。	1.文化の重要性および可能性と歴史性について、歴史文化に関するより深い知識を習得している (専門的知識)。 2.文化の重要性および可能性と歴史性について、より高度な分析・考察ができ、歴史文化に関する自らの見解を述べることができる (洞察力・分析力・論理的思考力)。 3.文化の重要性および可能性と歴史性について、歴史文化に関するより深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる (主体的関与)。	1.文化の重要性および可能性と歴史性について、歴史文化に関する知識を習得している (専門的知識)。 2.文化の重要性および可能性と歴史性について、分析・考察ができ、歴史文化に関する自らの見解を述べることができる (洞察力・分析力・論理的思考力)。 3.文化の重要性および可能性と歴史性について、歴史文化に関する関心・意欲をもって授業に臨むことができる (主体的関与)。
幻想文学論 A	文学部 専門分野 II	3	2	幻想文学やファンタジー作品について、多面的で私たちが驚かし、楽しませるものだけでなく、長い伝統を踏まえた人間の想像力の成果として捉え直す、とりわけ身近な内容を扱う。	1. 幻想文学についての知識を持ち、作品を系統立てて捉えることができる。(専門的知識) 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 自分の知らない作品、時代等について積極的に学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。(主体的関与)	1. 幻想文学についての基本知識を持ち、作品を系統立てて捉えようとする。(専門的知識) 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えようとする。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 自分の知らない作品、時代等について学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。(主体的関与)
幻想文学論 B	文学部 専門分野 II	3	2	幻想文学やファンタジー作品について、多面的で私たちが驚かし、楽しませるものだけでなく、長い伝統を踏まえた人間の想像力の成果として捉え直す、とりわけ作品の背景に即した内容を扱う。	1. 幻想文学とその背景について知識を持ち、作品を系統立てて捉えることができる。(専門的知識) 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 自分の知らない作品、時代等について積極的に学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。(主体的関与)	1. 幻想文学とその背景についての基本知識を持ち、作品を系統立てて捉えようとする。(専門的知識) 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えようとする。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 自分の知らない作品、時代等について学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。(主体的関与)
ジェンダー社会学	文学部 専門分野 II	3	2	ジェンダーという観点からさまざまな作品や現象、社会現象ととりわけ、ジェンダーによって生じる文化、社会的課題を解決する方法について考察する。	1.ジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生じた背景を理解できるようにする (専門的知識) 2.ジェンダーの概念を用いて、作品や社会現象を分析することができる (洞察力・分析力) 3.ジェンダーによって生じる文化、社会的課題を解決する方法を説明できるようにする (論理的思考力) 4.この授業で得た知識を自分ごととして捉え、積極的に行動できるようにする (主体的関与・リーダーシップ)	1.ジェンダーなど性差に関する概念を理解できるようにする (専門的知識) 2.作品や社会現象におけるジェンダーのあり方を説明することができる (洞察力・分析力) 3.ジェンダーによって生じる文化、社会的課題を解決できるようにする (論理的思考力) 4.この授業で得た知識を自分ごととして捉え、積極的に行動できるようにする (主体的関与・リーダーシップ)
文章論	文学部 専門分野 II	3	2	文学作品 (フィクション、散文、詩など) や歌詞の文章を鑑賞し、文体やレトリックにどのような特徴があり、それが読者に与える効果や印象を捉え、それがどのような効果を持つのかについて考察する。そこで学んだ内容を生かして、みずからさまざまなジャンルの文章を書く技術を高める。	1.さまざまな文学作品・歌詞に用いられている文体やレトリックについて正確に説明できるようにする (専門的知識) 2.文体やレトリックについての基礎知識を身につけた上で、どのような文章の想定する読者にふさわしいものなのかを適切に考えられるようになる (洞察力・分析力) 3.実際に、自分の思いや関心に基づいて文章を書くことができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。	1.さまざまな文学作品・歌詞に用いられている文体やレトリックについて説明できるようにする (専門的知識)。 2.文体やレトリックについての基礎知識を身につけた上で、どのような文章が想定する読者にふさわしいものなのかを考えるとすることができるようになる (洞察力・分析力)。 3.実際に、自分の思いや関心に基づいて文章を書くことができるようになる (論理的思考力・リテラシー)。
パフォーマンス論	文学部 専門分野 II	3	2	パフォーマンスとは何か、それを生み出し、それが支える文化的・社会的文脈はいかなるものか。具体的な現象を取り上げつつ様々な角度からの問いを向かい、人間の営みを広い視野で統合的にとらえることを目指す。	1.「パフォーマンス」の概念を理解できるようにする (専門的知識) 2.「パフォーマンス」をうまく文化・社会的文脈を捉えることができるようになる (専門的知識) 3.「パフォーマンス」の観点から現象を分析することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)	1.「パフォーマンス」の概念を理解できるようにする (専門的知識)。 2.「パフォーマンス」の観点から現象を分析することができる (洞察力・分析力・論理的思考力)。
宗教文化論	文学部 専門分野 II	3	2	人間社会の世界の中に位置づけ、説明する枠組みのひとつに宗教がある。本科目は古今東西に村をとり、対象とする社会、文化が宗教とどのような関係を持ち込んでいるのかを、具体的な事例によりつつ議論していく。	1.宗教という枠組み、物の見方について深く理解し、自分の言葉で説明できる (専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.各時代、地域、社会における宗教がどのような役割を果たしたか、どのような位置にあるものについて深く理解し、自分の言葉で説明することができる (専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.自分の生きる社会、文化における宗教のあり方について、自分なりの意見を述べるようになる (専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.宗教的な見解を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.各時代、地域、社会における宗教の役割を説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.自分の生きる社会、文化における宗教について説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
漢字文化論	文学部 専門分野 II	3	2	漢字が東アジアの文化の伝播、伝承に果たしてきた役割は大きい。この科目ではそうした漢字の意義と役割に着目して、漢字文化の伝播、内情を再考し、現代文化を読み解く手法を追究する。	1.漢字文化の様々な側面について深く理解し、その特徴を自分の言葉で述べるようになる (専門的知識) 2.漢字文化が文化の伝播、伝承に果たした役割について深く理解し、説明をすることができる (洞察力) 3.現代文化における漢字文化の意義と意義について深く理解し、「いまここ」の分析と捉えに役立てることができる。(分析力・論理的思考力)	1.漢字文化の様々な側面を、その特徴を自分の言葉で述べるようになる (専門的知識) 2.漢字文化が文化の伝播、伝承に果たした役割を学び、その意義を述べることができる (洞察力) 3.現代文化における漢字文化の意義と意義について、自分の言葉で考えを述べることができる。(分析力・論理的思考力)
思想文化演習 III	文学部 専門分野 II	3	1	西洋哲学思想あるいは東洋思想に関する代表的なテキスト (翻訳) を読む。その際、関連する優れた解説本がある場合は、それも併せて読む。その哲学・思想についての基礎的な見識を広げる。履修者の人数が多い場合はグループワークを通じて、少ない場合は各個人にてレポートし、プレゼン形式にて考察・分析のプロセスおよび結果を発表。全体でのディスカッションを通じて、対象となる哲学・思想の基礎的な理解・考察を深める。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebに適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について基本的な理解し、概観的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.既読した哲学・思想にもとづき、自らの有る考えを構築し、哲学思想的に展開することができる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.自らの有る考えを他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ) 6.履修者一団で議論し、構築した見識を総合する哲学的思想的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 7.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebに適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について基本的な理解し、概観的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.自らの有る考えを他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4.授業で培った理解と見識した考えを総合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる (主体的関与・リーダーシップ)。

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要		到達目標 (成績評価)	履修時科目 (成績評価)
				科目概要	到達目標 (成績評価)		
思想文化演習II	文学部 専門分野II	3	1	高深哲学思想あるいは東洋思想に関する代表的な哲学テキスト(翻訳)を読む。その際、関連する優れた知見がある場合は、それも併せて読みレポートし、その哲学・思想についての見識をより深く発展的に広げる。履修者の人数が多い場合はグループワークを通じて、少ない場合は各個人にてレポートし、プレゼン形式にて考察・分析のプレゼンおよび結果発表、全体でのディスカッションを経て、対象となる哲学・思想の理解・考察をより深める。	1.テーマに設定された哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について専門的に理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.理解した哲学・思想にもとづき、自らの有為な意見を構築し、哲学思想的に展開することができる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.自らの有為な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.テーマに設定された哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い検索・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について専門的に理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.自らの有為な意見を構築し伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.自らの有為な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.グループワークにおいて適切な役割を担いながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
芸術社会演習III	文学部 専門分野III	3	1	芸術社会を対象に、専門なテキスト・資料を読み解き、考察する。また発表、グループワーク、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1.作品や事象について適切に理解し説明することができる(専門的知識) 2.作品や事象を適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3.分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.作品や事象について説明することができる(専門的知識) 2.作品や事象を分析することができる(洞察力・分析力) 3.分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
芸術社会演習IV	文学部 専門分野III	3	1	芸術社会を対象に、専門なテキスト・資料を読み解くとともに、自らデータを収集し、考察する。また発表、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1.作品や事象について正しく理解し説明することができる(専門的知識) 2.作品や事象とそれらに関連するデータを適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3.分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.作品や事象について説明することができる(専門的知識) 2.作品や事象とそれらに関連するデータを分析することができる(洞察力・分析力) 3.分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
物語文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	国、ジャンルを問わず、文学作品を読み上げ、読解を学ぶ。文脈解し、発表、討論を通して意見を構築し、他者に伝える力を身につける。	1.物語文化に関していくつかの観点から論じることができる(専門的知識) 2.作品を分析することができる(洞察力・分析力) 3.調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.物語文化に関する基礎的な知識をえている(専門的知識) 2.作品をある程度分析することができる(分析力・洞察力) 3.調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
物語文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	卒業論文作成に向けて、文脈解し、発表を行い、討論を通して論文の構成を組み立てる。	1.物語文化に関して適切な観点から論じることができる(専門的知識) 2.作品を分析することができる(洞察力・分析力) 3.調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.物語文化の観点についての基礎的な知識をえている(専門的知識) 2.作品をある程度分析することができる(分析力・洞察力) 3.調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
比較文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	国や時代の異なる文学作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。自分の関心に基づくテーマについて発表をすることで、他の人に伝える技術を磨く。	1.それぞれの文学作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2.比較する文学作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3.他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.それぞれの文学作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2.比較する文学作品についての初步的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけている。(専門的知識) 3.他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)	
比較文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	国や時代の異なる文学作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。自分の関心に基づくテーマについて発表をすることで、他の人に伝える技術を磨く。	1.それぞれの文学作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で詳細に伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2.比較する文学作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3.他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.それぞれの文学作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で詳細に伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2.比較する文学作品についての初步的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけている。(専門的知識) 3.他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な判断を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)	
歴史文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	日本史の史料や歴史書などうち、応用的なテキストを読み解き、時代の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、深い知識を習得している(専門的知識) 2.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストを、正確に読み解くことができる(技能) 3.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、歴史学的方法論によってより高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.日本史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、ある程度知識を習得している(専門的知識) 2.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストを、ある程度読み解くことができる(技能) 3.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、歴史学的方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
歴史文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	日本史の史料や歴史書などうち、応用的なテキストを得意に読み解き、時代と社会の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、より深い知識を習得している(専門的知識) 2.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストを、より正確に読み解くことができる(技能) 3.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、歴史学的方法論によってより高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.日本史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、知識を習得している(専門的知識) 2.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストを、読み解くことができる(技能) 3.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、歴史学的方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度) 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
地中語文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	文脈、文物、事象の検討方法を具体的に身につけて、古今東西に及ぶ地中語文化の興行と広がり、現代世界の成り立ちと構造について学ぶ。	1.地中語文化に関する文脈、文物、事象について、具体的に、かつ正確に理解し、その特質について自分の言葉で説明することができる(専門的知識) 2.地中語文化に関する文脈、文物、事象を批判的に検討する能力を体得している(分析力・論理的思考力) 3.地中語文化とグローバル化する世界の関係について、具体的な知識を踏まえつつ、自分の言葉で議論することができる(洞察力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.地中語文化に関する文脈、文物、事象について理解し、説明することができる(専門的知識) 2.地中語文化に関する文脈、文物、事象を検討する初步的な能力を体得している(分析力・論理的思考力) 3.地中語文化とグローバル化する世界の関係について理解し、説明することができる(洞察力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
地中語文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	文脈、文物、事象の検討を通して、古今東西に及ぶ地中語文化の興行と広がり、現代世界の成り立ちと構造について理解を深める。	1.地中語文化に関する文脈、文物、事象について、具体的に、また有機的に理解し、その特質について自分の言葉で説明することができる(専門的知識) 2.地中語文化に関する文脈、文物、事象を検討する初步的な能力を体得している(分析力・論理的思考力) 3.地中語文化とグローバル化する世界の関係について、具体的な知識を踏まえつつ、自分の言葉で議論することができる(洞察力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.地中語文化に関する文脈、文物、事象について理解し、正確に説明することができる(専門的知識) 2.地中語文化に関する文脈、文物、事象を検討する初步的な能力を体得している(分析力・論理的思考力) 3.地中語文化とグローバル化する世界の関係について理解し、説明することができる(洞察力) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
現代文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	現代文化のさまざまなあり方を、特に「ポップカルチャー」をめぐって、グループワークで、文脈、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文脈や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識) 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力) 3.様々なメディアを通して、自分から明らかにしたことをわかりやすく伝達することができる(論理的思考力・リテラシー) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.現代文化について、文脈や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識) 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力) 3.様々なメディアを通して、自分から明らかにしたことをわかりやすく伝達することができる(論理的思考力・リテラシー) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
現代文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	現代文化のさまざまなあり方を、特に「ポップカルチャー」をめぐって、個人で、文脈、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識) 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力) 3.様々なメディアを通して、自分から明らかにしたことをわかりやすく伝達することができる(論理的思考力・リテラシー) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.現代文化について、文脈や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識) 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力) 3.様々なメディアを通して、自分から明らかにしたことをわかりやすく伝達することができる(論理的思考力・リテラシー) 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
中国文化演習III	文学部 専門分野III	3	1	中国の代表的な文学作品に触れ、中国文化への理解を深めつつ、中国のことわざから、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身の考えをみなに伝える力を身につける。	1.中国文化のさまざまな特色をよく理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを踏まえて示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.中国文化のさまざまな特色を一定程度理解し、その要点を説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	
中国文化演習IV	文学部 専門分野III	3	1	中国の代表的な文学作品に触れ、中国文化への理解を深めた経験を生かしつつ、中国のことわざから、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身の考えをみなに伝える力を身につける。	1.中国文化のさまざまな特色を十分理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを踏まえて示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.中国文化のさまざまな特色を一定程度理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	





科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目目標 (到達目標)	
				科目目標 (到達目標)	科目目標 (到達目標)
文芸メディア演習 CIV	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>かつてSFで発展した立体映像や視覚現象などの先駆的技術を活用し、未来の社会・文化・芸術・教育などを想像検証すると共に、また歴史の文化無形先駆メディアの創造を目指す。本科目は、前期に設定した個人または学内共同グループによる研究活動や作品制作、卒業研究、卒業制作として本格的に着手するほか、前期の活動をもとに構築した資料に基づき卒業研究、卒業制作に着手する。(なお、本科目終了までの期間は、相談の上、卒業研究、卒業制作のテーマ変更を認める。また、必要に応じて、本学の1・3・4年生や大学院生より他大学の学部生や先生との交流や研究会を通じ、各自の卒業研究・卒業制作について経過報告を行う。以上の活動を通じて卒業研究、卒業制作を開始することを目標とする。</p>	<p>・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  ・入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  ・懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  ・自らテーマを設定し、授業で得た知識を踏まえた調査研究または卒業制作が行える。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  ・自ら研究したテーマを見出し卒業研究の研究計画を完成できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  ・他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 DIII	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>デジタル時代におけるメディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の研修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.授業で得た知識を踏まえて、自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または卒業制作が行える。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 DIV	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>デジタル時代におけるメディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の研修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.授業で得た知識を踏まえて、自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または卒業制作が行える。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 EIII	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>音楽メディア・SNS・放送・電子書籍を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の研修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  授業で得た知識を踏まえて、自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または卒業制作が行える。(専門的知識・洞察力・分析力)  他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 EV	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>音楽メディア・SNS・放送・電子書籍を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の研修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  授業で得た知識を踏まえて、自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または卒業制作が行える。(専門的知識・洞察力・分析力)  他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 FIII	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>本授業では、身体表現、身体振舞、対人コミュニケーション、運動・スポーツ、心身の健康など、「身体」と「心」に関連するテーマについて実践的に学び、幅広い知識や考察の視点を身につけることを目指す。メディアにまつわる基礎知識を基に、現代社会における様々な事象や現象について心理学的観点から考察していく。レポート課題やグループワークを通して、図書館やWeb上で調べ、資料を適切かつ効率的に収集し、調べた内容や自身の考えや意見を目的として、授業やWeb上で発表し、自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.手元の資料を参照しながら、また、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換において、積極的な発言ができる。(主体的関与)  6.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用し、研究計画の立案・研究目的に合わせた調査・分析方法について考え、その内容を説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度であるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.手元の資料を参照しながら、また、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  6.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用し、研究計画の立案・研究目的に合わせた調査・分析方法について考え、その内容を説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度であるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 FIV	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>本授業では、身体表現、身体振舞、対人コミュニケーション、運動・スポーツ、心身の健康など、「身体」と「心」に関連するテーマについて実践的に学び、幅広い知識や考察の視点を身につけることを目指す。メディアにまつわる基礎知識を基に、現代社会における様々な事象や現象について心理学的観点から考察していく。レポート課題やグループワークを通して、図書館やWeb上で調べ、資料を適切かつ効率的に収集し、調べた内容や自身の考えや意見を目的として、授業やWeb上で発表し、自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.手元の資料を参照しながら、また、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換において、積極的な発言ができる。(主体的関与)  6.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用し、研究計画の立案・研究目的に合わせた調査・分析方法について考え、その内容を説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度であるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.手元の資料を参照しながら、また、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換において、積極的な発言ができる。(主体的関与)  6.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.自らの発表テーマについて、適切な参考文献を引用し、研究計画の立案・研究目的に合わせた調査・分析方法について考え、その内容を説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度であるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 GIII	文芸学部 専門分野II	3	1	<p>娯楽・図書・児童向けコンテンツ・図書館を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の研修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力)  2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力)  3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  4.懇話に臨み向け、執筆資料を提示し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)  5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与)  6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力)  7.児童・少年少女向けメディアやそれにかかわる事象について臨場感の説明ができる。(専門的知識)  8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度であるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>



科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価)	単位到達目標 (成績評価)
図書館基礎特論	文学学部 その他 資格関連科目	3	2	「生涯学習概論」「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館制度・経営論」は特に図書館司書課程の中でも基礎部分を成す重要な必修科目である。本科目ではこれら4科目で学ぶ内容のうち、いくつかの話題についてさらに深く学ぶ。変化の早い分野であるので、ここ5～10年以内の話題をとりあげる予定である。	授業で扱う以上のいずれかについて深く理解し、それを他者に説明できる。それについて有効な意見を述べることが出来る。(専門的知識・論理的思考力) * 図書館における情報技術に関すること * 図書館の運営に関すること * 図書館と社会との関係に関すること	授業で扱う以上のいずれかについて基礎的な説明ができる。(専門的知識) * 図書館における情報技術に関すること * 図書館の運営に関すること * 図書館と社会との関係に関すること
図書館サービス特論	文学学部 その他 資格関連科目	3	2	図書館司書は、情報とそれを必要とする利用者との橋渡しをする。そのためには利用者との会話をすすめる能力が必要である。本科目では、応用知識として応用方法や相手の感情を察知する手法について論ずる。さらに本科目では、印刷物から始まるメディアの発展をコミュニティケーションの進化ととらえ、その発展過程を論ずるとともに、特に大学図書館に関わる深い「学術情報」(論文等)の進化から利用に至るまでの過程をコミュニティケーションと考え、近年特に変化の激しいその過程を解説する。	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し、それを実践できる。(専門的知識) メディアの発展を網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 学術情報の生産・流通・利用のサイクルについて網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 学術情報流通の分野の現状と問題を的確に把握し、それを他者に説明できる。(専門的知識)	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法について基礎的な説明ができる。(専門的知識) 公共図書館における課題解決支援サービスについて基礎的な説明ができる。(専門的知識)
図書館情報資源特論	文学学部 その他 資格関連科目	3	2	特殊資料としての専門資料を一般資料と対比して解説し、専門資料の採集、評価、利用方法について解説する。図書館蔵書科学の中で特に文献の書誌構造に注目し、文献次覧(1次文獻、2次文獻、3次文獻)と書誌構造との相関関係から専門資料を理解する方法をいくつかの専門分野を例に論じ、その知識が全てが分野へ応用可能であることを示す。これにより、専門資料および専門的知識がどのようにレファレンスサービスに応用されているかを習得する。また、インターネット上にある専門資料に関してもその特徴と役割、印刷物との相違等について解説する。	専門資料の概念および概要について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 多くの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 2次文獻、3次文獻が何であるかを理解し、それをどのように図書館活動に活かすことができるのかを深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) インターネット上の専門資料について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 自ら専門資料を探索し、それをレファレンスサービスに応用することができる。(専門的知識)	専門資料の概念および概要について基礎的な説明ができる。(専門的知識) いくつかの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて基礎的な説明ができる。(専門的知識) 2次文獻、3次文獻が何であるかを理解し、それをどのように図書館活動に活かすことができるのかについて基礎的な説明ができる。(専門的知識) インターネット上の専門資料について基礎的な説明ができる。(専門的知識)
図書館実習	文学学部 その他 資格関連科目	4	1	司書課程科目の履修も最終段階に入り、基礎的な知識を得たことを前提に、図書館における実態を体験する。情報社会、生涯学習社会における図書館の業務の実態は、教室での授業だけでは完全に理解できるものではなく、図書館の現場でないと学べないこともある。実際の図書館現場における実態やサービスの現状を体験することにより、今までに学んだ内容をさらに深め、司書としての実践的能力を身に付けることを目標とする。実習先の図書館には、原則としてある程度公開図書館を運営、約2週間の実習を行う。実習は、各々が所属実習先と交渉し、許可を得るところから始まる。実習の準備段階、図書館での実習体験を通して、社会人としての基本的なマナーを習得することも重視する。実習に先立って、これまでに学んだことを踏まえ、実際の図書館現場での心構えや具体的な対応を中心に講義を行う。	これまで司書課程の各科目で学んできた知識を網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。これまで司書課程の各科目で学んできた技術を網羅的かつ体系的に理解し、それを実践できる。実習先で与えられた様々な業務について、自ら考えて技術を活用して処理することができる。社会人としてのマナーを深く理解し、図書館職員や利用者に応用することができる。	これまで司書課程の各科目で学んできた基本的な知識を理解し、それを他者に説明できる。これまで司書課程の各科目で学んできた基本的な技能を理解し、それを実践できる。実習先で与えられた様々な業務について、指示されたとおりに処理することができる。社会人としての基本的なマナーを理解し、図書館職員や利用者に応用することができる。